

厚木市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に関する

アンケート調査 報告書

【森の里地区(森の里中学校・森の里小学校関係)】

令和5年3月

厚木市教育委員会

目次

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回答率	1

第2章 アンケート回答

1. 回答者属性	
(1) 児童等の保護者	3
(2) 未就学児の保護者	3
(3) 地区住民	3
2. 設問 ※()内は各設問における回答対象	
(1) 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向) [児童等・未就学児の保護者、地区住民]	4
(2) 方針で定めている適正規模の範囲 [児童等・未就学児の保護者]	4
(3) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	5
(4) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	6
(5) 学年内でクラス替えができることの必要性 [児童等・未就学児の保護者]	6
(6) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきこと [児童等・未就学児の保護者]	7
(7) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいったか [地区住民]	8
(8) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか [地区住民]	8
(9) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なもの [地区住民]	9
(10) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきこと [地区住民]	9
(11) 各地域に学校を維持すること [児童等・未就学児の保護者、地区住民]	10
(12) 【玉川地域のみ】玉川地区・森の里地区に学校を維持すること [児童等・未就学児の保護者、地区住民]	10
(13) 学校の適正規模・適正配置の取組への意見・提案 [児童等・未就学児の保護者、地区住民]…	11
① 児童等の保護者	11
② 未就学児の保護者	24

③ 地区住民	27
--------	----

3. 自由記述欄 ※各設問における「その他」選択時の記載内容

(1) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	50
(2) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由 [児童等・未就学児の保護者]	50
(3) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきこと [児童等・未就学児の保護者]	52
(4) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか [地区住民]	53
(5) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なもの [地区住民]	53
(6) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきこと [地区住民]	53

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に当たり、学校の統廃合を含めた方策を検討することとしている学校(関連する学校を含む)・地区における今後の方策検討に係る基礎資料として、児童・生徒※(以下「児童等」という。)及び未就学児の保護者や地域住民の皆様の意向や意識を把握するため

※1…本アンケートでは「児童」は市立小学校に通う小学校1～6年生、「生徒」は市立中学校に通う中学校1～3年生を指します。

2. 調査方法

種別	児童等の保護者	未就学児の保護者	地区住民
調査対象	森の里中学校、森の里小学校に在籍する全ての児童等の保護者	森の里小学校の通学区に在住する全ての未就学児の保護者	森の里地区に在住する市民(無作為抽出による 1,104人)
依頼方法	調査票を郵送		
回答方法	インターネット上のアンケートフォーム又は調査票で回答		
実施期間	令和5年1月31日～2月17日		同5年2月3日～2月20日

3. 回答率

種別	配布数	回答数	回答率
児童等の保護者	253	137	54.2%
うち森の里中学校	(146)	(63)	(43.2%)
うち森の里小学校	(107)	(74)	(69.2%)
未就学児の保護者	51	29	56.9%
森の里地区住民	1,104	555	50.3%
合計	1,408	721	51.2%

※1世帯につき1アンケート調査を送付しています。複数の児童等や未就学児がいる場合、調査票は最も年長のお子様の区分で集計しています。

例)1世帯に、森の里中学校生徒と森の里小学校児童の2人がいる場合、森の里中学校の生徒として集計

【報告書の見方】

- (1) 調査結果の構成比の割合については、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、数値の合計が 100.0 パーセントにならない場合があります。また、個別の設問において無回答のような無効の回答がある場合に、回答数の合計と調査対象数が一致しない場合があります。
- (2) 複数選択が可能な設問については、全ての回答数を合計すると回答者数を超える場合があります。
- (3) 本文や表の選択肢の表記について、場合により語句を簡略化しています。
- (4) 自由記述については、未記入や判読が困難なもの、明らかな誤字などを除き、原則として回答いただいた内容をそのまま記載していますが、次に該当する場合は一部内容を修正しています。
 - ① 文字数が多い場合等については全文ではなく、一部を省略したり、要旨を記載したりしています。
 - ② 個人や個別の事例などが特定される内容等は、特定されないよう修正の上で記載しています。
- (5) 調査結果における太枠・太字箇所は、設問の選択項目のうち最も回答割合が大きい項目となります。

第2章 アンケートの回答

1. 回答者属性

(1) 児童等の保護者

① 児童等が通学している学校

学校	全体	
	回答数	割合
森の里中学校	63	46.0%
森の里小学校	74	54.0%
合計	137	100.0%

(2) 未就学児の保護者

① 未就学児が在住している通学区域

学校	全体	
	回答数	割合
森の里小学校	29	100.0%
合計	29	100.0%

(3) 地区住民

① 年齢区分

年齢層	全体	
	回答数	割合
20 歳未満	13	2.4%
20 歳～29 歳	43	7.8%
30 歳～39 歳	70	12.7%
40 歳～49 歳	73	13.2%
50 歳～59 歳	102	18.4%
60 歳～69 歳	128	23.1%
70 歳～79 歳	103	18.6%
80 歳以上	21	3.8%
合計	553	100.0%

② 世帯内における児童等の有無

児童等の有無	全体	
	回答数	割合
いる	59	10.6%
いない	495	89.4%
合計	554	100.0%

2. 設問

各設問の回答対象者は次のとおりになります。

設問	回答対象		
	児童等保護者	未就学児保護者	地区住民
(1) 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向)	○	○	○
(2) 方針で定めている適正規模の範囲	○	○	
(3) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由	○	○	
(4) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由	○	○	
(5) 学年内でクラス替えができることの必要性	○	○	
(6) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきこと	○	○	
(7) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいったか			○
(8) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか			○
(9) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なもの			○
(10) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきこと			○
(11) 各地域に学校を維持すること	○	○	○
(12) 【玉川地域のみ】玉川地区・森の里地区に学校を維持すること	○	○	○
(13) 学校の適正規模・適正配置の取組への意見・提案	○	○	○

(1) 地区の子どもを取り巻く環境(児童・生徒数の減少傾向)について

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者		地区住民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 知っていた	463	64.4%	99	72.3%	17	58.6%	347	62.7%
2 ある程度知っていた	221	30.7%	36	26.3%	10	34.5%	175	31.6%
3 あまり知らなかった	22	3.1%	2	1.5%	2	6.9%	18	3.3%
4 知らなかった	13	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	13	2.4%
合計	719	100.0%	137	100.0%	29	100.0%	553	100.0%

(2) 方針で定めている適正規模の範囲について

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 適切だと思う	39	23.5%	31	22.6%	8	27.6%
2 おおむね適切だと思う	74	44.6%	59	43.1%	15	51.7%
3 あまり適切ではない	24	14.5%	22	16.1%	2	6.9%
4 適切ではない	29	17.5%	25	18.2%	4	13.8%
合計	166	100.0%	137	100.0%	29	100.0%

(3) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について(3つまで選択可)

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 児童・生徒の人間関係が深まりやすい	33	11.6%	27	12.1%	6	9.8%
2 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい	42	14.7%	32	14.3%	10	16.4%
3 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が多くなりやすい	57	20.0%	43	19.2%	14	23.0%
4 異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい	12	4.2%	9	4.0%	3	4.9%
5 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが多くなりやすい	6	2.1%	5	2.2%	1	1.6%
6 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい	34	11.9%	30	13.4%	4	6.6%
7 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりやすい	6	2.1%	6	2.7%	0	0.0%
8 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に活気が生じやすい	47	16.5%	34	15.2%	13	21.3%
9 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい	28	9.8%	22	9.8%	6	9.8%
10 ICT 機器などの授業で使用する教材や教具が一人一人に行き渡りやすい	5	1.8%	5	2.2%	0	0.0%
11 学校と保護者・地域住民が連携した教育活動を展開しやすい	2	0.7%	2	0.9%	0	0.0%
12 PTA 活動等における役割分担などで保護者の負担を分散しやすい	11	3.9%	8	3.6%	3	4.9%
13 その他	2	0.7%	1	0.4%	1	1.6%
合計	285	100.0%	224	100.0%	61	100.0%

(4) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由について(3つまで選択可)

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 全教職員による児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい	28	25.7%	27	26.5%	1	14.3%
2 学校行事や部活動等で一人一人の発表や活躍の機会などが少なくなりやすい	14	12.8%	14	13.7%	0	0.0%
3 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が少なくなりやすい	12	11.0%	12	11.8%	0	0.0%
4 特別教室や体育館、プール等の施設・設備の利用面で、一定の制約がかかりやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
5 児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい	2	1.8%	2	2.0%	0	0.0%
6 多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少くなりやすい	3	2.8%	3	2.9%	0	0.0%
7 運動会や文化祭などの集団活動や学校行事に制約が生じやすい	6	5.5%	5	4.9%	1	14.3%
8 習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい	8	7.3%	8	7.8%	0	0.0%
9 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい	6	5.5%	6	5.9%	0	0.0%
10 PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい	3	2.8%	3	2.9%	0	0.0%
11 その他	27	24.8%	22	21.6%	5	71.4%
合計	109	100.0%	102	100.0%	7	100.0%

(5) 学年内でのクラス替えができることの必要性について

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 必要だと思う	42	25.8%	37	27.6%	5	17.2%
2 どちらかといえば必要だと思う	75	46.0%	62	46.3%	13	44.8%
3 どちらかといえば必要ではない	22	13.5%	16	11.9%	6	20.7%
4 必要ではない	24	14.7%	19	14.2%	5	17.2%
合計	163	100.0%	134	100.0%	29	100.0%

(6) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて(2つまで選択可)

設問	保護者全体		児童等保護者		未就学児保護者	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 長期的に一定の集団規模を維持でき、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成などが図られること	41	13.2%	33	12.9%	8	14.8%
2 通学に係る児童・生徒の負担が大きくなならないこと(必要に応じて通学負担軽減の方策が図られることを含む)	106	34.2%	84	32.8%	22	40.7%
3 通学路の見直しや整備など、通学の安全性が確保されること	48	15.5%	39	15.2%	9	16.7%
4 地域コミュニティと学校との関係が維持され、連携が図られやすいこと	32	10.3%	29	11.3%	3	5.6%
5 教職員の学校運営や校務などに係る負担が軽減されること	10	3.2%	8	3.1%	2	3.7%
6 将来的な学校の在り方を見据え、学校施設の建て替え費用の削減等が図られること	6	1.9%	6	2.3%	0	0.0%
7 どれだけ小規模になっても学校の統廃合は行わず、全ての学校が維持されること	41	13.2%	33	12.9%	8	14.8%
8 学校規模適正化の方策自体を検討する必要がある	6	1.9%	6	2.3%	0	0.0%
9 その他	20	6.5%	18	7.0%	2	3.7%
合計	310	100.0%	256	100.0%	54	100.0%

(7) 過去1年間に市立小・中学校にどれくらいの頻度でいったか

設問	地区住民全体		児童等がいる		児童等はいない	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 週1回以上	31	5.6%	12	20.3%	19	3.8%
2 月1回以上	29	5.2%	17	28.8%	12	2.4%
3 半年に1回以上	49	8.9%	18	30.5%	31	6.3%
4 年1回以上	73	13.2%	5	8.5%	68	13.8%
5 1回も行っていない	371	67.1%	7	11.9%	364	73.7%
合計	553	100.0%	59	100.0%	494	100.0%

(8) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか(いくつでも選択可)

設問	地区住民全体		児童等がいる		児童等はいない	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 子どもの見送りやお迎え(例: 児童クラブなど)	30	7.8%	22	15.5%	8	3.3%
2 保護者としての活動(例: PTA など)	39	10.1%	30	21.1%	9	3.7%
3 学校運営関係者としての活動(例: 学校運営協議会など)	6	1.6%	2	1.4%	4	1.6%
4 教育活動や放課後活動などのボランティア(例: 学習支援ボランティアなど)	23	6.0%	5	3.5%	18	7.4%
5 学校行事(例: 運動会や発表会、授業参観など)	83	21.6%	45	31.7%	38	15.6%
6 選挙での投票	10	2.6%	0	0.0%	10	4.1%
7 災害時(大雨、台風、地震)における避難	4	1.0%	1	0.7%	3	1.2%
8 避難訓練などの防災関係活動	49	12.7%	7	4.9%	42	17.3%
9 地域(例: 町内会・自治会、子ども会など)の会合・行事	62	16.1%	16	11.3%	46	18.9%
10 体育館や校庭などを利用した活動(例: スポーツ・文化活動など)	49	12.7%	12	8.5%	37	15.2%
11 業務上の関係(例: 学校で働いている、学校と業務上の関わりがあるなど)	17	4.4%	2	1.4%	15	6.2%
12 その他	13	3.4%	0	0.0%	13	5.3%
合計	385	100.0%	142	100.0%	243	100.0%

(9) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なものについて(2つまで選択可)

設問	地区住民全体	
	回答数	割合
1 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所としての役割	263	25.0%
2 地域の防災の拠点としての役割	312	29.6%
3 地域コミュニティや地域のつながりに関わる活動・交流の拠点としての役割	176	16.7%
4 スポーツ・文化・生涯学習の拠点としての役割	55	5.2%
5 地域の歴史や文化の中核的な存在としての役割	16	1.5%
6 地域づくり・人づくりを進めるための地域の核としての役割	64	6.1%
7 子育て世帯等の移住や定住を促進する役割	144	13.7%
8 特になし(児童・生徒の学びの場以外の役割があると思わない)	20	1.9%
9 その他	4	0.4%
合計	1,054	100.0%

(10) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきことについて(2つまで選択可)

設問	地区住民全体	
	回答数	割合
1 自治会や青少年健全育成会などを始めとする様々な地域コミュニティ団体と学校との連携・協力が図りやすいこと	98	9.6%
2 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所、地域防災の拠点など、地域コミュニティの拠点としての機能が維持されること	350	34.3%
3 学校施設の維持管理や再整備に係る経費などを考慮し、適正な規模での施設更新や施設の複合化が図られること	114	11.2%
4 市都市計画における各地域のまちづくりの方針や地域づくり諸計画等との整合が図られていること	50	4.9%
5 将来的に児童・生徒数が減少する見込みであっても、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内の全ての小・中学校が維持されること	167	16.4%
6 将来的に児童・生徒数が減少する見込みであることを踏まえつつ、地域コミュニティや地域づくりのため、地域内に小・中学校がそれぞれ1校以上維持されること	200	19.6%
7 特になし(教育環境の充実以外を考慮する必要はない)	5	0.5%
8 よくわからない	21	2.1%
9 その他	15	1.5%
合計	1,020	100.0%

(11) 各地域内に学校を維持することについて

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者		地区住民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 維持すべき	334	47.0%	73	54.1%	17	58.6%	244	44.7%
2 できれば維持すべき	289	40.7%	45	33.3%	5	17.2%	239	43.8%
3 必ずしも維持しなくてよい	77	10.8%	15	11.1%	5	17.2%	57	10.4%
4 維持しなくてもよい	10	1.4%	2	1.5%	2	6.9%	6	1.1%
合計	710	100.0%	135	100.0%	29	100.0%	546	100.0%

(12) 【玉川地域のみ】玉川地区・森の里地区内に学校を維持することについて

設問	全体		児童等保護者		未就学児保護者		地区住民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 維持すべき	389	54.2%	67	49.3%	15	51.7%	307	55.5%
2 できれば維持すべき	246	34.3%	44	32.4%	6	20.7%	196	35.4%
3 必ずしも維持しなくてよい	68	9.5%	21	15.4%	7	24.1%	40	7.2%
4 維持しなくてもよい	15	2.1%	4	2.9%	1	3.4%	10	1.8%
合計	718	100.0%	136	100.0%	29	100.0%	553	100.0%

(13) 学校の適正規模・適正配置の取組に対する意見・提案について

① 児童等の保護者(回答数:83 件)

回答区分	No	回答内容
取組の考え方・進め方・スケジュール (39 件)	1	統廃合に賛成です。子どもが通学している小学校では、1 学年に 1 クラス 30 名だけです(子どもは 1 年生です)。クラス替え無しで6年間同じ顔ぶれで過ごすことになります。これでは豊かな人間関係の構築や多様な考え方に触れる機会が少ないです。人は人を知ることにより自分を知ると言われています。人を知る機会が少なれば自分を知る機会が減り、社会に出たときに立ち向かうことができません。資金的な価値が減少する等の短期的な視点に惑わされず、長期的な視点で子どもたちの人間形成のために何が良いかを考えて検討していただきたいと思います。
	2	今後も子どもの数が減っていく中で、統廃合した方のメリットが大きいと思うので賛成です。小さな学校も良いですが、多様な人間関係に触れることで学ぶことも大きいです。学区が広くなると少し心配もありますが、昔に比べて子どもの行動範囲も広がっていると感じます。(SNS の普及もあり)地域を超えたつながりも大事になっていくと思います。
	3	児童、生徒数が減少すると、だいたいグループが子どもたちの中で決まってしまう、多様性に欠ける。子ども自身、新しいグループや友人を作りたいくても限られた人数の中で、小・中学校ともに、気が合わない子とも仲良くしなければならず、ストレスになりやすいので、人数は多い方が子どもたちにとっては、逃げ場があり楽なのではないかと思います。
	4	単級などクラスの人数が少ない学校は教員の負担も増えるし、子どもたちも特定の友達しかできず、また、中学校などでは部活動の種類も限られ、やりたい部活動ができなかったりするため、減少が予測できる場合は、統合なども考慮の上検討が必要だと思う。その場合特に気になるのが、子どもの足で通える通学路なのか、(安全なのか)なども検討する必要があると思う。
	5	資料に学校が小規模化した場合の課題が挙げられているが、これら課題が、教育においてデメリットとは思えない。統廃合を目的にした理由付けという印象を受ける。また、学校の統廃合については、通学手段(スクールバス)等も同時に提案されるべき。児童・生徒にとって安全な環境を守ることは、必須事項である。
	6	既に小学校、中学校が存在しており、通学している児童、生徒数が極端に少ない(学校全体で数人等)わけでもないのに、適正規模・適正配置のためだけに統廃合を実施する必要は無いのではないかと思います。小規模校なので、ほとんどの方と面識があり、子ども同士で問題が起こった場合にも、親同士で確認することも容易になるメリットがあると思う。親自身、適正規模の小学校、中学校へ通っていたが、同級生にいじめられていたが、生徒数が多いためか、教員に気かけられることもなく、放置されていた。適正規模の学校の場合、同級生同士であっても、一度も同じクラスにならず、交流のないまま卒業していく同級生が大勢存在することになり、適正規模自体に特にメリットがあるとは思われない。通学距離・時間について、中学校の場合、「4km・60 分以内」、となっているが、玉川地区と森の里地区の場合、どちら側へ通学する場合にも、途中で傾斜のある坂道があり、自転車通学は難しい可能性も考えられる。平坦な道であれば問題無いのかもしれないが、それぞれの地域の地形等の状況も違うので、一概に通学可能とするのはおかしいのではないかと。

取組の考え方・進め方・スケジュール (39件)	7	森の里小・中学校の廃校は反対です。森の里から玉川小・中学校への登校は距離があり過ぎて危険、又、土地の資産価値の下落が起きデメリットしかない。統廃合がどうしても必要なら森の里小・中学校を統合し、森の里へ学校を維持してほしい。それも無理ならスクールバスを導入してください。御検討の程、宜しくお願いします。
	8	少人数、小規模校を求めて、森の里地区に引っ越してくる方も多くいます。大人が考える適正とは、必ずしもすべての子どもにあてはまるものではありません。
	9	行政の合理性を優先すべきで無く、総合的に勘案して児童が安全・安心して学業が継続できるように現校を維持すべきであると考えます。
	10	問4と問6-1は、誘導的な質問内容のため、回答しません。ここで取り上げている「適正規模」が、本当に子どもたちのための適正を考えているのか疑問です。森の里小・中学校は、現在の規模でも地域に大切にされ、素晴らしい教育活動が行われている。子どもたちのことを本当に第一に考えるのであれば、その環境を取り上げることは考えられないのではないか、このアンケートを含め、説明会等、全てがはじめてから統廃合ありきで進んでいる。本当に子どもたちのために考え、検討しているのか。市や行政の都合を押しつけているようにしか感じない。
	11	「適正」と言っているが、子どもたちは今の環境でとても充実した日々を送っています。適正って何ですか。予算を減らす(費用減)ためとしか思えない。子育てを第一に選んだ地区です。どうか残してください。
	12	極端ですが公立の小学校も高校、私立のように行きたい学校に行けるシステムにしても良いと思う。偏りがでてもしようがない。人が集まらなければ潰れる、当たり前のことであるし、人気があるところは、そこはそこで活気もでるし人も集まる。また、生徒数が少ない場所は人件費、維持費など含め相対的に判断し縮小が必要だし、働く人もいないと思われます。
	13	必ずしも1学年1クラスしかないから、クラス替えがなく多様な考え方や学びができないわけではない。子どもの通学の安全性、通学時間などを考えると、場所によっては、通学に1時間以上掛かり、毎日のことなので負担が大きい。中学生は部活動参加などもあるため、部活動の選択が増えても、通学時間により選ばない可能性もある。1学年の人数が少なくても異学年、地域住民交流、単級学習など、他の市内にない小・中学校の在り方を工夫して特色ある学校にしてみても良いのではないのでしょうか。
	14	現状を踏まえ、統廃合案は直視すべき問題だと思います。ただ、学校があるべき所にないとすると地域の活性化に影響したり、更に若い世代の家庭がいなくなるのでは…と心配されます。学校・地域がどう存在するのか変化が求められる時は様々な意見が出ますし、大変な問題だと思います。我が家は末っ子が小5ですが、すでに1クラス…、クラス替えのない現状に悩むことも多々あります。(子にしてみると〇年生になったら誰と一緒にかな～という楽しみがないこと、ずっと同じメンバーというストレス、発展性・刺激のない状態です)やはり、社会性を学ぶにはクラス替えは大事なのだと痛感しています。良い方向に進みますよう地域住民の一人として祈っています。アンケートに参加させていただきありがとうございます。
	15	生徒・児童数が多ければ豊かな人間関係が構築されるのか。それよりも安全な通学路、下校後に遊べる時間があることのほうが健全な成長につながるのではないかと思います。

取組の考 え方・進め 方・スケジ ュール (39 件)	16	学校の教育の目的、進め方、教育内容によって選択が分かれる。学校の統廃合だけが論点なのは残念です。4人目の息子がこの4月より道立の過疎地の高校へ進学予定。1クラス 15 名前後ですが、学校存続に力を入れていて教育内容も良い。他3人もそれぞれの地域で教育を受けた経験をしており、厚木も是非魅力ある学校教育をお願いしたい。夫婦ともに厚木生まれ厚木育ちです。期待しています。
	17	この先、子どもは減り続けるので、小手先の対策は無意味。やるなら抜本的に行われるべき。今のやり方は、何が問題となっているのかははっきりしない。少人数の何が問題なのか。校舎を減らしたいのか。予算的な問題なのか。等
	18	現在は少人数で人間関係も密に過ごしているが、環境の変化が少ないため、高校へ進学した際に今までの規模感や周囲の生徒の多様な性格に戸惑う子どもが森の里は多いとのこと。そのギャップを少しでも縮められたら良いと思う。
	19	小・中学校の適正規模・適正配置の検討は、人口減少、少子高齢化の流れにおいて仕方がないと思われます。心情としては卒学した母校がなくなるのは悲しくさみしいですが状況が許さないのであれば、認めざるをえないと思われます。施設の老朽化を考えなければ、小規模での運営が良いと考えます。施設の老朽化という現実と、児童数減少の現実は見通せないと思われ、時代に即した取組で良いと思われます。そうでないと、市民税等による負担増加が予測され心配です。
	20	児童数が減っていくことは今の日本では全国的なことであり、今後しばらくはこの流れが続くことは明確である。全国的に起きている少子化を背景とした、学校が小規模化することがあたかも悪であり、対処すべき問題であるという認識自体が間違っている。学校とくに小学校は地区連携の最も重要な拠点で有り、統廃合すべきではない。もし、小学校がない地区ができれば、地区の魅力は一層下がります。ますます家庭数や児童・生徒数が減っていくと考える。小規模校にもメリットがあり、すべての学校が大規模校と小規模校の中間を目指そうという発想自体が間違っていると感じる。
	21	適正規模、適正配置で、考えることはたくさんあると思いますが、統合されたことで生じる子どもたちへの影響は何か、常に念頭において対応していただきたいと思っています。
	22	森の里小学校と玉川小学校が統合した場合、小学1年生が徒歩通学するには、通学路に人が少ないトンネルがある等、不安な点が多くあります。森の里小学校は少人数で、先生方が生徒のことをよく把握されていて良いと感じる面があれば、入学してからほぼクラス替えがなく過ごすことに、不安があります。何か起きたときに、逃げ場が少ないように思います。統合して人数が増えるメリットもあるとは思っています。森の里地区から学校が無くなると、更に少子化が進むと思いますが、地域の方のコミュニティの場として、せめて公民館や図書館だけでも残ることを希望しています。森の里中学校がなくなる場合、高校受験直前に玉川中学校へ転校になる可能性があります。センシティブな時期なので、早めに結論を出して、市民へ通知してほしいです。

取組の考え方・進め方・スケジュール (39件)	23	厚木市は年々近隣の市と比較すると子育て世帯も含め転出が増えているように感じます。高齢化率も高まっています。子育てとは世帯にとって一過性のものではなく、環境さえ整えていただければ2代、3代と継続的に引き継がれていくものです。駅前周辺だけ高層マンションが立ち並び、その他の地域は公共の交通機関も乏しく、子どもの学校へのアクセスも年次が上がるにつれハードルが上がってしまう。厚木市の都市構造そのものに問題があるように感じます。例えば地区ごとに学習のための自習室を設けたり、引退された先生方から学習支援を受けられる仕組みづくり、部活動の地域移行もより一層推進してほしいと望みます。小学校も他の市に比べて下校時間が早まり、結果的に休み時間の短縮、水泳の授業もなくなりましたが、子どもの教育にばかりしわ寄せがきている現状に不満を抱くのも無理はありません。大人の都合で子どもの集団で学ぶ機会、遊ぶ自由を狭めている現状は将来的に社会性に乏しい人格形成を促しかねないのではないのでしょうか。学校統廃合はやむなしの選択であることには理解を示しますが、そのやり方、方向性については市民の意見も交えて議論していく必要性を感じます。
	24	適正規模が望ましいのは分かるが、例えば各学年1クラスでも20名程度いれば十分な教育や人間関係の構築ができると思う。森の里に小学校と中学校があり、この環境を望んでここに引っ越している人がほとんどなので、ここから学校が無くなることは全く考えられない。学校が無くなると、ここの良さはほぼなくなり住民がいなくなると思う。学校の統廃合を問題にするより、森の里の子どもを増やす対策が必要だと思う。
	25	現実的には維持が難しいものだと理解していますが、森の里小学校がなくなるのは本当に辛く悲しいです。
	26	森の里は小・中学校のどちらも近隣にあり、通いやすく子育て世代には適していると思います。そのため通学時間・距離が長くなってしまふのは防犯上あまり良くないかと思います。少人数制につきましても、安心して子どもたちを通わせることができ、とても良い環境となっていると思います。
	27	適正規模・適正配置の取組は理解できるが、子どもたちへの負担(通学、新しい環境への対応など)を考えると慎重になってしまう。経費削減、職員への負担などを考え、小・中学校の施設、建物の統合を提案します。施設備品を共有できるもの(プール、体育館、音楽室、校庭、保健室など)は使う。人員については同一建物になることでカバーできる部分があれば一人一人の負担軽減になるかもしれない。またシルバー人材の方、教員OBの方の登用を積極的に行い人手の足りない部分、負担が大きい所を埋めるようにしてみてもいいと思います。
	28	私の家族は教育環境が良い(通学が安全・いじめが無い・学級崩壊が無い・教諭の目が届きやすい・縦割り・学業成績が良い)学校があるから、他の地域から森の里に転居してきた。学校が無くなれば同様の考え方を持つ家族が転居して来なくなり、森の里の活気(都会の活気とは異なる)や良さは失われる。教育委員会は市長を始めとする教育に重きをおかない者たちの言うことを聞き、結論ありきで進めるのではなく、本当に子どもたちのことを考えて自分たちが正しいと思うように本件を進めて貰いたい。まずは現場の教諭と子どもたちの考え方や意見を調査するところから取組を進めるべき。どうしても統廃合するのであれば学級数が少なく、森の里の子どもたちに問題がある証拠を示し、合理的な説明をする必要があると考える。財政面の課題を根拠とするのであれば、児童手当や医療費無料は廃止して良い。

取組の考え方・進め方・スケジュール (39件)	29	将来的に街の価値を落とさないためには学校は絶対必要だと考えます。しかし、森の里小、玉川小どちらも1クラスで人数も少なすぎる。中学校も部活動でチームを組めない少なさです。もし統合するのであれば、森の里に小学校を玉川に中学校を残すのが良いと思います。そしてコミュニティバスで児童を送迎したり、中学生は自転車通学を許可するか、バスの定期代を無料にするなどしてほしいです。生活態度や習慣は小学校の時が大事ですし、森の里は保護者だけではなく街全体で子どもを育てようとする雰囲気があり、実際に助けてくれるシニアの方も多いので学校は残った方が良いと思います。
	30	問6に対しては個人の答えを出すのは難しいと思います。玉川地区、森の里地区に偏らず、両地区の子どもたちがスムーズに学校生活を送れるような検討をお願いしたいです。
	31	森の里小学校、中学校ともに小規模特認校として小規模だからこそその魅力ある学校を作り、今後進むであろう少子化に対して、少しでも長く統廃合をしなくてよいように地域で存続させてほしい。
	32	「未来を担う人づくり」の理念と子どもたちが快適に学べる質の高い学習環境の実現のために、森の里地区に小・中学校を存続させてください。①多様性を理解・尊重し、協働する力を育むためには、同世代の子どもたちだけでなく、保護者、地区住民など幅広い層との関わりが重要です。そのためには地区に学校を存続させ、教職員と共に、保護者や地区住民などが密接に子どもたちの教育に関わっていける環境が必要です。②森の里は地区内に小・中学校があることで、安心・安全な環境で子育てができるという声をよく聞きます。学校がなくなると、地区の魅力が低下し、子育て世代が離れ・入ってこなくなり、子どもの更なる減少が容易に想像されます。学校児童数はさらに減少、地区の子どもが減って放課後や休日の友達との関わりも減り、教育環境が悪化の一途を辿ってしまいます。③課題は学校統合以外の方法で解決できます。施設整備の費用削減は、小・中一体型施設への移行等。学校教職員の負担軽減は、外部委託、地区住民の支援を受ける等。人間関係や相互評価の固定化の回避、学びあい・切磋琢磨する機会の確保は、学年を超えた取組、他校との学習交流を行う等。
	33	森の里小学校、森の里中学校、残していただきたいです。
	34	森の里小学校、中学校共にそのまま残して頂きたいと思います。児童が少なくなるのは承知ですが、玉川小学校、玉川中学校まで通うのは児童だけでなく親にもいろいろな面で負担になります。私も含め小学校、中学校が近くにあるからと言う理由で住まわれている方も多いはずで。どちらも残すことが難しければ、資料にも記載してありましたが、せめて小学校と中学校の一貫校を希望致します。どうぞ宜しくお願い致します。

取組の考え方・進め方・スケジュール (39件)	35	自分の子どもが学校の統合により、途中から他の学校に通うことになるというのは大変抵抗があります。現時点でも30分以上掛けて通学しておりますが、通学路の安全性は維持されております。他校に統合となると、通学に大変時間掛かるようになること、今までのように安心できる通学路が維持されるとも思えません。日によっては一人で通うこともあるかと思うと、送迎なしでの通学は考えられませんが、家族が送迎することも難しいです。また、子どもたちの気持ちを考えると元々決まっていた分かっていただけたらともかく、途中から他の学校に通うというのはほとんどの子が嫌なのではないかと思えます。そもそも今の小学校に通えなくなることが分かっていたら、森の里に引っ越すこともありませんでした。いろいろな事情があり、こういう話になっていることも承知しております。せめて統合するにしても在校生はあまりに負担が大きいため対象外とし、今後(来年とかではなく数年後)の新一年生には毎年入学前に統合の説明をし、6年後に統合する。大々的に6年後の統合をアナウンスする等、在校生、保護者に配慮いただきたい。
	36	参考資料の「5 適正配置の方策」で「4 自転車通学を認める」は優先順位が最下位ですが疑問です。となりの伊勢原市はヘルメットをかぶり、自転車通学をしている中学生たちがいます。厚木市はなぜだめなのでしょう。統廃合のことを考えると公共交通(バス)では無理だし、部活動等(帰宅部含む)それぞれの下校時間も、スクールバスもどうかと思います。土日の部活動の時など親が車で送っていったりと負担が大きくなります。厚木市も中学生の自転車通学を認めてほしいです。
	37	「適正規模・適正配置」という言葉自体が適正ではありません。小規模、少人数の学校は行政側から見れば適正ではないのかもしれませんが、子どもたちにとってはメリットの方が多いです。
	38	アンケート調査、お疲れ様です。多岐に渡る問題のご検討拝察します。アンケート回答に当たり、同封の資料を拝読しました。問題点の、生徒数の減少、施設の老朽化、教職員の多忙化は、原因は全く別のモノです。施設の老朽化は、施設設立時から予測できることであり、予測可能な劣化の対策をしていないことが原因です。教職員の多忙化は、教員の本来業務以外の仕事まで、教員が担っていることが原因です。業者委託可能なことは、外注することで解決出来ます。生徒数は、増加している地区もあることから、減少に合わせるのではなく、増加の方法を考えることが、必要です。小中学校の統合は、原因の解決策ではありません。原因と真摯に向き合い、すり替えることなく解決を検討していただくことを望みます。なお、今件の問題に関して 微力ながら尽力いたします。ご連絡をお待ち申し上げます。
	39	森の里から玉川への通学は、通学の面で現実的ではない。現在の適正規模に合わせての統合ではなく、適正規模そのものの見直しを検討してほしい。森の里だけではなく、子どもの現状はどこも同じだと感じる。教師の雇用も考慮し、1クラスの最低人数の緩和を検討していただきたい。

教育環境 (14 件)	40	子どもたちの豊かな人間関係の構築のためには、1 学年2クラスはあった方が良いでしょう。ただ森の里にはそれを超える魅力があります。地域の人々とのつながり、地元への愛着、学年を超えた交流など。中学校がなくなると今まで以上に子育て世代の人が引っ越してこなくなり、子どもの数はどんどん減ってしまいます。先代の方が築き上げてきた様々な行事、交流のイベント等の文化がなくなるのはとてももったいないと思います。森の里は小・中学校時代を子どもが過ごすのにとっても素晴らしい環境だと思います。取組次第で子どもの数を増やすことができるのではないのでしょうか。まずは、「小中一体型施設」としての小中一貫校を設置し、森の里の特色を生かした教育で「小中一貫教育」へのシフトを行うことで、多くの子育て世代の方に来ていただける地区になるのではないかと思います。
	41	森の里小学校と中学校とを併合して小中一貫として残してほしい。多様な人間関係構築のために周りの高校や大学そして企業との共催イベントを開催して盛り上げてほしい。
	42	小中一貫校にしたらいいと思います。
	43	絶対に小学校、中学校をなくしてはいけないと思います。厚木市全体の利益、利点を考えられないのでしょうか。小中一貫という画期的な学校ができ、取組が進められれば、厚木市全体が、全国から注目され、児童が増加します。減少→統合→減少→統合のようなことは安易にすべきではありません。4才から森の里に住む私は、とても森の里が住みやすく、素晴らしい地区です。厚木に住む全ての児童にとって良い方向に進むよう考えてほしいです。
	44	厚木市森の里と同じように駅から離れた山の上の方にある住宅街に大阪府池田市伏尾台があります。行ったことがあります。街の雰囲気も似ています。伏尾台小学校→伏尾台中で小中一貫校になりました。森の里も伏尾台のようになんとか小・中学校をとに残してほしいと思います。
	45	現在、国の教育改善として少人数学級の実現を可能とする大幅な定数改善の意見が出ている中、小規模化のまま維持することは、今後のより良い教育現場を維持していく上で必要なことではと考えます。一方で施設の老朽化においては、老人ホームへの移行などを視野に入れて修繕も良いのではと思います。実際に元学校が養護老人ホームになったケースもあり、人口年齢の推移を考えますと前向きに検討すべきではと考えます。学校教職員の多忙化においては、地域とのつながりの中で協力を求めることで改善が可能な面もあり、一概に小規模のために教職員の負担が大きいとも言えません。むしろ、大規模な学校の方が他の面で負担が大きいとも聞いております。また、小規模学校のデメリットについては、大規模な学校であってもその地域の考え方などにより起きていることもあり、小規模学校ならではの問題であるとは言い切れません。小規模だからこそそのメリットを維持しつつ、新たな対応を見つけるのも良いのではと考えます。
	46	価値観が多様化し、匿名性の高い事件が起きる現代社会において、同じ人として向きあえる小規模校は貴重な存在だと思います。どれだけ小規模になっても全ての学校を維持するわけにはいきませんが、1 学年 10 人くらいでしょうか。このあたりの感覚をアンケートされてもよいのではと思いました。適正規模が学級数で定められている意味はよくわかりません。部活動は、学校間でシャトルバスを運行し、2つの学校で1つの部活動といった具合にするなどはないのでしょうか。

教育環境 (14 件)	47	学校職員の多忙、費用などの問題についてはもちろんよく分かりますが、小規模校の良さ、通学の安全性を考えて特に子どもたちのことを思い、森の里を選び住み始めました。まわりにもそういう想いの人が多いと思います。そして実際にここで生活し、子どもたちを学校に通わせて良かったと思っています。できるだけ今の森の里小・中学校を無くすことなく安心して通わせてあげてほしいと熱望します。
	48	小学校は少人数で、一人一人の子どもをよく見ることができる。異学年も含めて学校全体で子ども同士が友達という関係も地域によってはあって良いと思う。人数が多ければ良いということでもない。
	49	小規模であってもメリットはあります。学校内でのいじめや不登校の問題は児童・生徒の人数が多いとなかなか解決しづらいと思います。教員の目が届くきめ細かな指導の確立をまず優先させてほしいと思います。また、教員の指導力不足も大きな課題です。規模ありきの話ではなく学校現場の課題を解決するための教職員の配置を考えてほしいです。
	50	子どもの教育環境を第一に考えてください。大人の都合や見栄で振り回すのだけは、やめてほしいです。移行前の段階で子どもの数の減少により、部活動の数がどんどん減っていつてしまうことが心配です。子どもたちが部活動に取り組む機会や選択を広げてあげるためにも、前段階での玉川中学校との部活動の合同などの方法を考えていただきたいです。
	51	森の里においては市民教育が盛んで、「ふれあい喫茶」という地域の方を講師に招いての授業があり、素晴らしい試みだと思っていて、それが中学校で行われていないことがとても残念。玉川と統合されても、ぜひ続けてほしいし、むしろそれを機に中学校でも開催されることを願う。世の中では「探求」が盛んで、特に私立中高一貫校はいかにして学校から飛び出させて個を磨くことにつなげられるかを模索している。ふれあい喫茶で行われていることはまさにそれで、小学校だけでは不完全でもったいない。中学・高校と年齢が上がるにつれて、より主体的な活動ができるようになるので、そうした中で、地域の特性を知り、愛着を感じ、ひいては自分の興味関心を軸にした視点で厚木市全体を考えるような人材育成になると期待できる。また、それらの活動を通して、机上の学習をアカデミックなことや職業につなげることもできるし、興味関心を同じくする仲間、地域の方との絆を深めることにもつながると考える。厚木の地域特性をいかした学校を選択することができて、特に先生方には、いわゆる受験のための勉強を仕込む存在ではなく、様々な人と人とのつながりを支える存在であることを願う。
	52	日本国憲法 第 26 条 1 (略)その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。 2 (略)その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。 項に序列があるように、「能力に応じてひとしく教育を受ける権利が有る」ことが、「無償」であることより優先事項だと考える。地方行政が担う責任と経費の負担は理解するが、地域単位の考え方を脱し、子どもたちの通学と学校生活における安全性、効率性を両立しつつ「能力に応じた質の高い教育」を受けられるための全く新しい概念で学校および教育の在り方を検討すべき時期ではないか。教育現場における本来の課題は何か、明確にし、説明してほしい。インターネット社会がここまで拡充する世の中において、オンライン授業で専門教科の拡充と負担軽減、Virtual トリップで社会科見学などの機会の効率化、設備等ハードの議論だけでなく、今後に求められる教育のための授業を支えるソフト・コンテンツで補える部分を含め、古い制度の見直しを期待する。

教育環境 (14 件)	53	このアンケートでは、1 学年当たりの学級数が満たないことから、小規模校として扱われており、回答に困った。政府としては、そもそも1クラス 30 人学級を目指しており、その場合、現状の1クラスの児童・生徒数を考えると、適正内学級数が保たれるのではないかと思う(ex、35 人学級だと1クラスだが、30 人学級なら2クラス作れる(17 人・18 人で)。児童・生徒数に対して、教職員を減らすよりも、施設管理や環境整備を外部委託(→ex、シルバー人材センターの活用 etc(地域住民との交流も図れるのではないか))してもよいと思う。(教職員の残業代よりも安価で済む)。第1優先は、子どもたちの安全であると考えます。
通学関係 (11 件)	54	小学 1 年生でも歩いて通える距離にすべき。働く親に送り迎えは不可能。小1の壁というものもきちんと考えてほしい。スクールバスもあつたらなお良い。
	55	少子化と言われている世の中で見直すことは必然だと思いますが、小学校が統合された場合は少し考えものです。未就学から進級した子どもたちが通学するには家から近い方が親としても安心です。
	56	多様性など考えると、統合しないといけないこともわかりますが、子どもたちが安全に通学できることが第一条件です。又、一つ心配なのは、玉川小学校は小規模特認校であり学区外から様々な子が来ており、そうした点も心配なところ。小人数にして2クラスとかにしてくれるとうれしいです。森の里小・中合同にして、小中一貫校にして教育に特化させてはいかがでしょうか。希望者も増えると思います。教育モデル校としてやり直してはいかがですか。
	57	通学に掛かる負担をどのように考えているのか。統廃合を行えば、間違いなく森の里、玉川地区、厚木市から出て行く若い人が増える。一番守らなくてはいけない子どもたちに、これ以上負担を掛けなくてほしい。
	58	坂の多い地区のため、自転車通学は難しいと思います。バスの運賃も高額です。3km 以上の通学には負担軽減の方策が必須だろうと思います。
	59	通学する児童・生徒を主体に考えてほしい。道のりが遠くなったり、危険な場所を通る可能性がある場合は、バスの運行を考えるなどしてほしい。学校数が多いことで先生の負担が増えることがあるようなら、実際に意見を聞きたいし、他地域などの統廃合例なども参考にしたい。(説明会などを行なっても、参加できる時間が取れない)
	60	もし玉川小と森の里小の統合があるならば、七沢森林公園の坂道は子どもの足では大変だと思うし、暗くなると人が少なすぎて危険だと思います。スクールバスの運行を検討してみてもいいでしょうか。また、もし中学校の統合があるならば、自転車(アシスト付)での通学を可能にしてあげたら良いと思います。
	61	通学の距離・時間が一番心配です。公共交通を利用するには、お金が掛かるため、生活が厳しい。そのため、できるなら無料スクールバスを出していただけたら有難い。
	62	森の里小と玉川小は歩くと遠いので、近道が整備されるなら統合もありかと思います。又はスクールバスが導入されるなら。
	63	統廃合された場合、確実に安全に通えるように、スクールバスを出すなどしてほしい。もし、公共交通機関を使わないといけないのであれば、交通費の負担をしてほしい。(特に中学生)

通学関係 (11 件)	64	玉川地区に限ったことではないが、もっとコミュニティバスやスクールバスの検討をしてほしい。小鮎地区は飯山小学校側から小鮎中まで歩いて通っているのは本当ありえないと昔から思っている。子育て日本一を目指すとかいうなら、今後どうすれば若い世代が来てくれるかを考え、実際とても増えてしまった場合も考えねばならないのでは。そのような時にこの地区は学校が遠いですとか言われたら普通に嫌だと思う。今回の適正規模は個人的には未来を逆に考えてないのではないかと思えてならない。
地域づくり・ 地域コミュニ ティ (13 件)	65	学校の適正規模・適正配置のみではなく、地域全体の将来発展を含めて考えるべきです。リモートワークが浸透している中、森の里に若い世代を招致する良いチャンスであると行政からアピールしてほしいです。
	66	地域から学校がなくなることで、過疎化に迫車をかけることがないように、人が住み続けたいと思える街づくりや、廃校となった土地や建物の使い方を考えてほしい。「学校がないから住めない」ではなく、「学校がないけど住みたい」学校が遠いと思わせないような通学方法を考え、住民が前向きな気持ちで考えられるような説明がほしい。個人としては、市にとっても、地域にとってもやるべきことだと思っています。
	67	学校の統廃合は子どもたちへの影響はもちろんであるが、地域への影響も甚大だと思う。学校がない地域にわざわざ引っ越ししてくる方は増えないと思うので、地域の高齢化に拍車がかかり、取り返しのつかない事態になることを懸念している。自分自身、13 年前に環境が良い森の里に引っ越してきたので、学校がなくなった場合、森の里に定住する意味がなくなる。
	68	地域の小・中学校の位置付けは、教育の場を中心に地域・地区の様々なコミュニティの中心の場所としてあげられる、活用すべき拠点だと思います。適正配置の条件を見直しすることも忘れてはいけないと考えます。
	69	森の里地域と玉川地域の統廃合は反対です。子どもが減少しているからといって、学校を統廃合するのは、安易な考えだと思います。学校の登校が不便になれば、子どものいる家庭は駅近くに住むことを考えます。子どものいる家庭が、益々減っていったしまうと思います。
	70	適正規模という言葉が先走りしていると思う。少人数でも大人数でも両方メリット、デメリットがある。それならば、それをいかした教育を考える方が得策ではないか。森の里地区は、子どもからお年寄りまでの縦のつながりを重視してきたように私は感じている。そして森の里小・中学校がその役割の一端を担っている。それが無くなることは、地域のコミュニティの破綻にもつながりかねないと危惧している。また、教職員の負担に関する問題だが、部活動などはもっと外部の人間に任せてよいと思う。事故などには気をつけなければいけないが、そもそも教職員だから大丈夫ともいえない。地域の人材をもっと活用する方向で負担軽減を目指すこともできる。ボランティア活動として、参加したい方も少なからずいるのではないだろうか。学校の規模よりも、児童生徒一人一人をどう幸せに導くか、それを行政と教職員と保護者と地域が一丸となって取り組むことが大事だと思います。言うはやすしですけどね。子どもたちのことを第一に考えて、このようなアンケートをとってくださっていることに感謝いたします。ありがとうございます。
	71	小学校がなくなると、若い人はその地域に住みません。小規模であったとしても、存続してほしいと願います。

地域づくり・地域コミュニティ (13 件)	72	小学校が統合されることによるメリット・デメリットが説明されているが、学校運営に限定されている。もっと広範囲の視点で検討すべき、小学校がなくなることによってその地域に新に移住したいと考える若い世代の方が少なくなり地域の高齢化が更に進むことになると予想される。小学校に通う子どもを増やすための施策等案を検討した上で判断すべきと思う。
	73	森の里地区は子どもの人数が減少傾向であるが、地域のコミュニティが盛んであり子どもたちだけでなく、森の里住人にとっても小・中学校は必要である。適正な規模ではないから無くすのではなく、その場所に必要かどうかで決めるべきだと思う。
	74	地域にとって学校の存在は重要であり、コミュニティ維持のためにも再編成すべきではないと考える。
	75	クラス替えの可否が適正規模を言い募る重要な要素のように読めるが、通学や地域との関係性や、地域の活性度も子どもの成長や考え方には大きく影響する。何を持って適正と考えるのか。特に駅から遠い地区で、単純に地区内の学校をなくすことは新規の居住者を諦めることにつながる。子どもの生育環境が良いことが大きな利点となっているのに、これを廃止して地区の将来はないと宣言するには時期尚早。学校の維持、修繕費用や教職員配置など行政課題はあろうが、その対策は必ずしも統廃合では無いだろう。行政課題の対応策と学級数の適正化を混ぜこぜにして話をするべきでは無い。一学年の学級数には関係ないだろう小中一貫校が良い例で、皆課題を理解できていない。通学の便や安全対策するにも行政コストは掛かるだろうし、学級数の適正化で統廃合していたらどんどん学校減らして不便になり地域の衰退、市の衰退に向かうだけ。住民にはもっと真摯に学校の統廃合の影響を、善し悪しを含めて説明してほしいし、市全体のありようを考えた複数の案を示してほしい。今は統廃合ありきで話を進めようとしているように見えて不信感大。
	76	①本アンケートは再編成を前提としているように感じられ、誘導的構成であるため間違えたり、意に沿う解答でないまま答える可能性を充分に感じます。アンケートとして公平性に疑問があります。②森の里には、小学校・中学校ともに(形はどうあれ)残してください。森の里は地域コミュニティが完成された状態に魅力があり、移住者の集まった住居区です。学校のない不便な場所となれば、住民は流出し、衰退します。③少人数・小規模で教育してきた例は地方に以前からあります。給食費や給付金もありがたい話ですが、それよりも、心身にも勉学にも手厚い教育によって、本当に輝ける子が育つことが願いです。ぜひとも首都圏で少人数教育における実績の先例となって、不登校がなく、塾も不要なほどの教育水準になってこそ、子育ての厚木と言え、人も集まることと思います。④もし学校がなくなり、資産価値の下落の原因となった場合は、どのように対処いただけるのか、明示していただきたいです。
	77	あまりにも大きな問題で考えがまとまりません。すみません。森の里は高齢化が心配です。高齢者施設を考えていただきたいです。
その他 (6件)	78	児童・生徒数が減少していることは承知しています。少子化により、地域だけでなく市内でも、今後課題になっていきます。現在検討されている地区だけでなく、今後、その都度、統廃合を進めるのが正しいのかと疑問です。国全体で、少子化が進んでいる中で、新しく学校を創立したり、児童・生徒数を増やしたりしている県や市もあります。市や地域に人を呼ぶ策が必要ではないでしょうか。

その他 (6件)	79	若い子育て世代が、市外からも、森の里や玉川地区にたくさん住むような子育てに魅力ある対策や方針を考え、作っていかねば、子どもが増えないと思う(子育てに有利な補助など)。できれば統合せず、維持していただきたい。それぞれ地域の良い面があると思うので。
	80	児童が駅前や南毛利地区に集中しすぎている。一方で、その他の地域が減少していく根本的な要因は、住環境にあると思う。そして、学校を無くすことはその地区に、子どもが増える今後の見込みを絶望的にしてしまう。厚木市は、各地区の住民のバランスを意識して今後の街づくりを考えていかねばいけません。そもそも、森の里地区はバスの始発が遅く、最終も早いので働いている人や学生の生活に支障をきたしています。それが原因で引っ越す人もたくさんいます。利用者が少ないから不便でも仕方ない、とされてしまっただけでどんどん過疎化が進んでしまいます。厚木市は、森の里や七沢地区に今後若い人を誘致する気はないということでしょうか。駅近くの便利な地域にだけ、子どもが集まれば良いという考えにしか思えません。人が集中している地域の住民には課税を増やしたり、逆に少ない地域には地域のコミュニティバスのようなサービスを検討したら、人の流れは変わるのではないのでしょうか。学校の少人数クラスはメリットしかありません。ぜひ、教職員の確保や学校の維持に投資していただきたいです。
	81	森の里小学校の説明会で「地域に小・中学校があるから森の里を選んだ。無くなると分かっていたら選ばなかった」という趣旨のコメントがありましたが、小・中学校が地域から無くなると若い世代の移り住みがなくなります。子どもが減っているから学校を無くす。という受動的な対応では市の発展はありません。子どもが減っている。だから、もっと子どもを増やすための施策を考える。という能動的で強い意思を持った対応が必要です。本件は地域の将来を考えるタスクを負っていない教育委員会が検討すれば「子どもが減る。それなら学校を統廃合しよう」という結論になるのは至極当たり前です。本件は行政が市の将来を見据えて検討すべき事案です。これから少子高齢化が進む中、市町村間で子育て世代の奪い合いが始まります。それを見越して子育てに先行投資している一部の市町村が呼び込みに成功しています。全国 24 位の財政力を持つ厚木市は今が投資の時です。森の里地区は東地区土地整備事業や厚木秦野道路 IC 開発など、人を呼び寄せることができる事業が進んでいます。小・中学校の統廃合よりも空き家の売却を促すなど、若い世代を呼び込む施策を出してもらうことに期待しています。
	82	児童・生徒数が 1985 年をピークに減少傾向にあったことを認識していながら、今このタイミングで教育委員会が市立小・中学校の適正規模・適正配置について検討を開始することがナンセンスだと思います。本来であれば、市の都市計画やまちづくりにおいて、人口減少に歯止めをかけるべく、検討がなされるべきであったのではないのでしょうか。現に、海老名市や大和市では人口が増加傾向に転じています。近くに学校がなくなれば地価も下がります。通学が不便になれば子育て世代は寄り付かなくなります。空き家も増え、地域の衰退にもつながりかねません。ピーク時から 38 年間なにもしてこなかった、そのしわ寄せが今を生きる子どもたちに向かうのでは、あまりに身勝手な取組だと考えざるを得ません。学校運営にコストが必要なことは誰でも分かります。建設した当初から分かっていたことです。人口が減ってしまったからといって学校を減らし、運営に係る予算を削減することと引き換えに、子どもたちに負担を強いることは、あってはなりません。学校数について現状を維持し、人口を増やす努力をしてください。教育委員会だけで議論し、片付く話ではないです。

その他 (6件)	83	現状での統廃合は時期尚早であり、地区に子育て世帯を呼び込む方策の方を実施すべきだと思う。また、大人数(適正と定めようとしている児童・生徒数)の教育と、少人数の教育どちらも経験しているが、全体的に少人数のメリットの方が大きい。ただし、部活動の減少などはデメリットとしてあるので、教員に過度の負担がかからない方法(地域ボランティアの活用など)で、対策すべき。
-------------	----	---

② 未就学児の保護者(回答数:16 件)

回答区分	No	回答内容
取組の考え方・進め方・スケジュール (9件)	1	少子化が進んでいるこの地域は、いずれ学校の統廃合が必要になると思います。子どもたちが適切に学ぶことができ、また安全に通学することができるのであれば保護者として問題ないと考えます。ただ、通学の距離・時間に関して、小学1年生の子には3キロ・45分が適正とは思いません。この場合スクールバスもしくは公共交通機関の利用を認める必要があり、また公共交通機関を使用する場合は使用する家庭に市が補助金を出すところまで検討していただきたいです。
	2	一学級の人数が少ないよりも、統廃合等をして人数が多い方が子どもの人間関係の成長や行事等の活気には良いと思いますが、子どもの通学距離が遠くなってしまうのが心配です。
	3	今後の更なる少子化を踏まえ、様々な形態を試し、特に小学生においては通学の安全性と利便性を最優先で確保する方策を模索したほうが良い。適正規模というが、より人口規模が少ない自治体もあるので1クラスだから問題だとは思えない。
	4	学校を統廃合することに関しては、通学負担の軽減措置がとられるのであれば賛成です。しかし、森の里地域の少子高齢化抑止に対する政策(例えば若年世帯誘致や高速道路の開通、商業施設の誘致などで利便性を向上させる)が並行して実施されていくことを望みます。
	5	当該児童・生徒の親はもちろん、市民誰一人として泣きを見ることなく、フェアに進めて頂きたいお願い致します。大規模は大規模の、小規模は小規模の良さ特徴があります。画一的に人数で輪切りにするのではなく、人数だけでないそれぞれの良さを互いに認識しリスペクトした上で、小・中学校を維持することこそが、多様な価値観を醸成すると信じてやみません。貴教育委員会が考える小規模校の課題に関しては、どのようにしたらそれらを解決できるかを親子はもちろん、地域住民も合わせて話し合っていければと考えます。新市長が街頭演説で仰っていました。「借りて住みたい街じゃダメです。一生住みたい街じゃなきゃだめなんです」。その通りだと思います。全ての厚木市民が誇りを持って安心して住み続けられるようにすれば定住増となり、かつ、満足した市民一人一人が主人公となり人を呼び込むことで移住増となり、最終的な人口増にもつなげられると思っています。本施策が厚木市の起爆剤になることを信じてやみません。
	6	子ども自身が住む地区の小・中学校に通うことは、子どもにとって、通学の負担軽減だけでなく、地域への愛着や地域住民の人的ネットワーク構築に繋がると思うので、各地域内に学校を維持する方針で検討してほしい。
	7	せっかく学校の近くに住んでいるのに学校が変わって遠くになってしまうのはつらいです。
	8	正直なところ、森の里に引っ越したのは「小規模の学校で、大人しい方の息子に丁寧な教育を受けさせたい」、「少人数でも深い人間関係をもってほしい」という思いと、「安全な通学路があり安心」という思いからでしたので、統廃合は残念な気持ちがあります。ただ、小規模校の教員の負担が大きいのは問題であり、教員の余裕が子どもたちへの関わりに大事だと思います。また、全学校の維持はコスト的にも難しそうという印象を受けました。ですので、必要な適正化は重要と思いました。

取組の考え方・進め方・スケジュール (9件)	9	通学距離が長くなり、子どもの負担が大きくなるのが心配です。徒歩で通うことが困難となり、通学時の安全性が低下します。また、街の魅力が低下し、過疎化を加速させることにもつながるので、施設規模の縮小はやむを得ないとしても、子どもの徒歩圏内で学べる施設の維持を検討してほしいと思います。小中一貫校による施設負担の軽減・隣接学年を交えたカリキュラムの実施による効率化(学内行事、体育など)。フリマ開催による地域住民との交流拡大・デジタル活用による教務負担の軽減・地域住民を交えた校務の分担(清掃、クラブ活動、委員会活動など)。生涯学習支援の場としての活用。他地区からの通学も許可する特区とする。モラル施策実施による街の活性化・付加価値向上。民間の教育事業者への施設貸し出し事業。IT 機の寄付受付。公園としての整備。一体化・地域清掃活動への参画・文化祭。体育祭、夏まつりなど地域自治体との共同開催。スマートシティ、コンパクトシティ化。
教育環境 (2件)	10	無理に統廃合を進めるよりは、小中を一貫するなども視野に学校は残してほしい。クラスが減ったとしても、多学年が集うというのも魅力的な側面はあるのではないかと思うし、必要に応じて他校との交流を図ることもできると思う。
	11	地区から学校がなくなったら子育て世代は住まなくなる。「未来を担う人づくり」どころか、統廃合は「未来を担う人減らし」の施策だと思われる。少人数学級を推進していただきたい。
通学関係 (1件)	12	小学校の統廃合に対する最大の懸念は、通学距離が延びることと通学路の安全性が確保できるのかということです。遊歩道の整備された安全性の高い通学路に魅力を感じて森の里に居を構えたという個人的な理由もあります。少人数化によって人間関係が固定化されやすいという問題は確かにありますが、運動会や文化祭、特定の授業の合同実施などを通じて学校間の交流を増やす、地域住民との交流の場を増やすなどといった対策を講ずることも可能かと思います。統廃合ありきではなく、全国の他の自治体での実践例なども踏まえた具体的かつ柔軟な対策案が提示されることを期待します。例えば、小中一体型施設の利用は、施設老朽化や教職員負担の問題にも一定の効果が期待され、デメリットもあまり見当たらないと思うのですがいかがでしょうか。(小中一貫教育の導入も含めた)前向きな議論をお願いします。
地域づくり・地域コミュニティ (4件)	13	子育て世代が森の里地区に住みたいと思える施策を考えていただきたい。厚木市が計画的につくった街である以上、その計画が頓挫するようなことがあってはならないと思う。森の里地区から学校がなくなった場合の人口への影響を試算した上で、小・中学校の在り方も検討いただきたい。自分は森の里出身で、今森の里で子育てしている。周りの同級生は皆森の里が大好きだが、住むメリットが弱く住まないと選択している。理由としては、駅までのアクセスが悪いこと、新築住宅が建てられる場所が少ないことを挙げている。後者については、森の里地区に人が住み始めた時期を考えると、これから世代交代が始まる段階だと想定されるので、これからむしろ森の里地区に子育て世代を呼び込むチャンスが到来すると考えられると思う。長く書いてしまったが、小学校はもちろん、中学校も、1 クラスの人数を減らしクラス数を維持していただき、森の里地区にはぜひ継続して設置していただきたい。先生への負担が多い点は、アメリカなどで実施されているように、事務員を雇うなど他の施策を講じられると思う。また、小中一貫校という手も有効と思える。お読みいただきありがとうございました。

地域づくり・ 地域コミュニティ (4件)	14	統廃合を進めることで、小・中学校の通学が困難になる地域は今後新たな住民が移り住むことにマイナス要因になり、市が率先してその地域の過疎化を助長することになると思う。整備された住宅街や、新たに宅地造成ができる地域であれば統廃合は早計なのではないか。校舎の老朽化など考えると、地域的に通学が可能であれば小・中学校統合、学校建屋を小さくするなど。また、統廃合を進め、現在の小規模特認校制度を活用し、他校の生徒を集め、一校当たりの人数を増やすにしても、様々な課題があるように思う。小規模特認校制度の運用範囲を広めて、数学に特化した学校など、特色を色濃く出して他との差別化を図るようにし、その地域に通いたいと思えるような運用を望みます。
	15	住宅を購入するに当たり、環境を重視した。(スーパーや学校があるから今の所に住んでいる)統廃合をするという話は聞いていない。住人が増えるような努力(バス・モノレール等)をしていないのは市の責任である。統廃合には反対である。
	16	・小中学校は災害時の避難場所でもある。統廃合によりその移動・機能縮小がある場合は広い世代への説明・理解が必要。 ・統廃合により小中学校がなくなる地域では、子育て世代の流入減少、高齢化・人口減少加速、空き家・荒地の増加、さらなる人口減少という悪循環が懸念される。都市計画の観点から議論し、市街化区域に小・中学校を維持し人口減少に歯止めをかけるべき。 ・統廃合の影響を人口予測に加味し、その影響による人口減、土地住宅等の資産価値低下の想定について地域へ説明・理解が必要。 ・縦割りで公共施設(小中学校・公民館等)の統廃合を進めると、地域により公共施設の急減少が懸念される。地域内での公共施設の集約も検討すべき。 ・小中一貫校は教育上の目的により設置されるが、同時に学校規模適正化を解決する方策として検討すべき。 ・統廃合により児童数が増える小・中学校では、自動車による児童の送迎に伴う近隣の交通量増加が想定され、また、他地域の保護者がPTA活動に参加しづらくなることによる近隣の保護者の負担増も想定される。地域へ負担増の説明・理解が必要。 ・通学時間が長くなることによる学習時間格差も考慮すべき。

※区分「その他」は該当なし

③ 地区住民(回答数:206 件)

回答区分	No	回答内容
取組の考え方・進め方・スケジュール (73 件)	1	通学の便を考えると徒歩 30 分圏内に学校があることが一番だと思います。ですが、生徒数が少なくて学校行事やクラス編成に支障が出るなら考えるべきとも思います。学区の検討も必要ですが、地域の開発なども踏まえて、20 年後 30 年後…それ以降のことを同時に市として検討することが大事ではないでしょうか。学校に通う子どもの前に、親が生活の拠点をどうするかで学校がどこになるかという風に考える人の方が多様な気がします。学校に通う子どものことだけではなく、生活をする場所を選ぶ子どもの親のことの方が重要だと思うのです。そうはいつでも難しい問題なので、今ある学校で生徒数が集められる状況を見ると統廃合が必要なのであれば、スクールバスを出すなど、何かしらの措置を取る必要があると感じます。
	2	もし、森の里小学校に通う児童が玉川小学校に編入した場合、 ・現在の森の里小学校から比較的交通量が多い七沢トンネル経由で、約 1.5 キロメートル通学距離が延びてしまう。 ・現在、森の里地区の小・中学生の通学路は、ほとんど車の往来を心配する必要がないほど安全である。徒歩でトンネルを抜け、消防署の交差点に至るまでの間、事故や犯罪にあう確率が増えてしまう。 今後、子育て世代を呼び込むことを考えた場合、徒歩圏で安全に通学できることは、大きなアピールポイントになると考える。ぜひとも、ご一考をお願いします。
	3	今年の新入生が 20 数名と聞きました。これから、更に減っていくことを考えると、学校を残していくことが難しいですが、できれば残したい気もあり、難しいです。
	4	少人数の学校にはそれなりに良い点がありますが、この辺り(森の里)は地方のへき地ではないので、通学方法はバス等、手当てできるのですから、玉川小と森の里小とを統合して、適正な人数にするのがよいかと思います。(現時点では統合してもなお小規模校ですよね。)球技とか学習面での競い合いとかある程度の人数がいた方が社会性も育つと思います。
	5	従来存在していた学校が廃止になった場合、そのまま存続する学校周辺地区の住民との不公平感が出ないだろうか。また通学が徒歩では困難となる児童・生徒へのケアはどのように考えるのか、取り組むのか。例えば、改定当初は運行されるといわれたスクールバスが年月と共に廃止となるなどした時に、保護者によるマイカー送迎などをやらざるを得なくなれば、家計への負担は重くなる。また、廃止した学校の跡地の利用をどのように考えていくのか。単に、利用したい人が利用すればよいという考えでは、その施設の維持負担を利用しない、あるいは利用したくともできない人へも一律に負担させるのもどうかと思う。未来を担う子だから大切な存在であることは理解している。しかしながら、子どもを持ちたくても持てなかった人、高齢者などにも子育て世帯以上に配慮、負担軽減も考えてもらいたい。病身の高齢者に早く死ねと言わんばかりの制度ではないのか。
	6	現状の学校数維持をねばり強く、第一に考えることが重要。数を変更したら、後に戻そうとしても、容易に戻らない。その間の当事者の負のダメージは補えない。
	7	小・中学校の配置は現状維持がいいと思う。児童の立場から言えば、通学距離が長くなると、安全面が懸念される。(一人歩きする距離が増えたと、危険も伴う)高齢者が増加している現状を踏まえると、空き教室の有効利用等を考えてほしい。時間を持て余している元気な高齢者が多過ぎる。健康でいるためにも、学校という箱物で、全く違う使い方ができないものかと思っている。

取組の考え方・進め方・スケジュール (73件)	8	児童・生徒の通学距離・時間も考えてあげたい点と学年の人数(クラス数)が少なくなると、勉強や行事、スポーツなどに影響があるのも可哀想である。また、学校の維持費用の問題との関係を考えてと一辺倒の答えが出にくい。玉川地域の少子化が進んでしまっている点の改善も難しい問題かと。
	9	少子化なので統廃合は仕方ない。職員の数も少ないと思うので統廃合し役割(責任)が減るならばよいと思う。いじめられている子は他クラスへ移ることもできる。(逃げ場がある)本当は人口が増える政策の方が先だと思う。
	10	児童・生徒数が多かった時に合わせて設立された学校数を児童・生徒数が減った後でも維持することには無理があると考えます。必要に応じ統廃合を進めるのが妥当と考えます。統廃合により適正な規模の学校になれば、小規模校では不可能であった部活動の再開も可能となることでしょう。特に地域住民の声を聞かなくても行政の判断で統廃合についてご検討いただいていいと考えております。
	11	住んでいる地域に、小規模であっても小学校や中学校があることは嬉しく、心強いことです。登下校の子どもたちと挨拶をかわし、学校から聞こえてくる子どもたちの歌声や歓声を聞くのも幸せな気持ちになります。社会の状況が変化していかなくで、子どもたち、先生方、地域の住民全ての人の幸せにつながるように、知恵を出し合い、工夫し、対応していったほしい。私もよく考えていきたいので、これからの経緯もきちんと知らせてほしい。
	12	市立小・中学校の適正とはどういうことですか。児童・生徒数により統合することが適正ではないと思います。現状のまま、維持されることを希望します。
	13	私は森の里に居住し、森の里地区の小・中学校へ通っていました。おそらく玉川地区の生徒より通学は楽な部類に入るかと思います。それでも通学が大変と感じたことはたくさんありました。山なので坂道が続く中、教科書や持ち物がかなり重いのです。卒業してかなり経つので、その頃とは違うかもしれませんが、タブレット等活用したり、教材も学校で共用するなどをしっかり考えて検討していただきたいです。最近物騒な事件も多いので、バスなどの通学手段もいいと思います。少子化が進む中、維持が大変なものも重々わかっています。ただ、この地域は、緊急避難場所が学校くらいしかありません。維持するために、学校以外の活用も検討すべきなのかもしれません。可能かどうかは分かりませんが、公民館や地域ケアプラザを併設など。
	14	人数が減少したから、学校統合と考える前に、厚木市全体での偏り、不登校児童への対応を考え、減少した地区への登校を促したり、スクールバスを出したり、やることはあると思います。厚木市へ転居してくる人たちも増えたりします。小中一貫教育を進められたら全国的にも、すばらしい取組になるのでは。なくなったものは復活しないため維持をお願いします。
	15	防災や地域コミュニティにとっては各地域に学校が配置されることが望ましいが、過疎化した地域でよくみられる同級生がいない状態や施設の老朽化がある場合は、子どもたちの思い出や教育のレベルに関わっていく問題となるため、再編成や統廃合が積極的に行われるべきだと思う。アンケート調査は18歳以上とあるが、児童本人にも考えてほしい内容なので、難しいと思うがアンケートの機会を設けてほしい。
	16	小学生が遠くの学校へ通うことは賛成できない。少人数学級であっても教員の十分な確保、待遇改善が望まれる。未来を担う子どもたちのために教員不足を解消する手だてを考えてほしい。

取組の考え方・進め方・スケジュール (73件)	17	地域コミュニティの拠点として活用するという考え方がある方が良いが、どうしても統合する場合、エリアが大きいことがあり、指導をした上での自転車通学又はスクールバスが必要。
	18	統廃合する際にどちらを残すか選択するアンケートをとれば身近な子どもがいる地域に残ってほしいと思うのは自然でどちらに決まっても反発はあるでしょう。税金で賄っている以上はどちらも無駄に存続させることが出来ないとは思いますが、統合によって生じる移動距離の負担は、中学生には自転車通学などの方法もまだ考えられますが、小学生には交通事故などへの配慮など難しい問題が多いと思います。可能ならそれぞれの地域で小中学一貫校を目指す方が得策ではないでしょうか。職員(先生方)のすみ分けさえ出来れば難しい問題ではないように思います。目的はあくまでも未来の子どもたちのために良い方向に持っていくことですので決してお金では換えられないものです。本末転倒にならないよう頑張ってください。
	19	将来を考慮して、小規模校同士の統廃合には疑問を感じます。長期的なビジョンで適正学級が維持される形を検討してほしいです。
	20	問 8-1 設問は真意が分かりづらい。問 8-2 で回答したように、玉川地区と森の里地区のそれぞれに設置した小・中学校をそのまま維持すべき。同一地域としてカウントされて地域内の学校同士で再編成や統廃合を行うべきではない、それぞれの地区としての独自性や歴史を尊重すべきという立場です。児童・生徒数によって再編成・統廃合がなされるべきではなく、各地区の歴史・文化・独自性に応じた教育がなされるべきです。少数でも成立する、より個々人の個性が見出せる教育を考えてほしい。小中一貫校の形態もありうるし、そこで育まれる人格形成も尊重できる。単にメリット・デメリットの比重対比だけで判断するのは過ちかと。厚木市として、人口増加・若い世代の移住・子育て世代が真に願うモノ・コト、ハードとソフトの支援をしっかりと考えて施策を打っていくべき。子どもたち・若い世代が増えることによって、高齢者の活性・支援も充実できるはず。高齢者が若い子育て世代を助ける、相互に助け合う社会と市の在り方を様々な層から意見を聞き出して、有用な施策を見出すことが大切です。厚木市は、商業施設や集客を隣の市に奪われ続け、人口が増えなくなっている。
	21	現在、小・中学校に在学している世帯や、今後その可能性の高い世帯の意見を優先して考慮すべきだと考えます。教育は今後の街づくりの基本的な柱です。
	22	このアンケート自体が、玉川と森の里の小中学を今後合併させることを誘導するような意図が読める。玉川、毛利台、森の里、などを含めた厚木市としての長期(10～20年先)を見据えた都市計画の中で学校の配置をどうすべきかを市としてたたき台をつくるべきです。教育部門だけの課題ではない。
	23	どちらかに寄せるではなく、どこに配置するのが防犯、街づくり等、総合的に考えて良いかを考えて決めてほしい。
	24	子どもが生まれ育った地域に根づくよう、ぜひ地域に学校を維持することが実現できるように願っています。地域で子どもたちを見守り、育てていきましょう。
	25	統廃合については、財政面のことが大きな問題ではないかと思っています。他にもクラス替えができないことや部活動のことなどあるかもしれないが、教員の指導力で解決できることも多いと感じています。子どもの問題を解決できない担任をよく見ます。市の財政の優先順位としては、未来のために子どもたちを優先すべきだと考える。小学校が閉校すれば、引越しも考えるという保護者の意見も聞いたりしています。森の里をこれ以上過疎化させないためにも学校の維持は、絶対に必要だと思います。

取組の考え方・進め方・スケジュール (73件)	26	児童や生徒の減少は、全国的に共通する現象であるが、学校は各地区の生活基本インフラの機能・役割を持つ。したがって、子どもの数が減少しようと、それぞれ学校は維持すべき。少人数に適宜対応した運営(先生の増減)の選択。建物は簡単に壊せないで、余ったスペースは幼稚園、保育園、デイサービスなどに転用するか、貸し出しするなどで利活用できると考える。
	27	既に他府県の自治体で実施してきた統廃合策を十分に参考してほしい。
	28	通学路のことを考えると、それぞれの地域に学校をなるべく維持してほしいと思います。地域の拠点としても必要だと思います
	29	急激な児童・生徒数減少の中で、大きな校舎を維持することは、大変だと思います。複合的施設として使用するか、逆に児童・生徒の学びの場として絞り、小規模化するか。統廃合で地域に学校がなくなることは、これからの若者が住みたくなくなるので避けたいとは考えます。
	30	少子化対策を考えるなら現状を維持すべきであると考えます。
	31	玉川も森の里も現在1学級と聞いているので、6年間クラス替えがないのは良くないと思う。基本的には統廃合を推進すべきと思う。
	32	統廃合して子どもへの負担やリスクを増やすのであれば、厚木市から出て行きます。子どものことを考えた上での判断とは思えません。断固反対です。
	33	通っている子どもたちの負担・ストレスとならないように。そこで働いている人たちを切り捨てるようなことはしない。こういうところに市は税金を使うべき。
	34	将来(近未来)の人口減を見据え、大所高所から施策を検討してください。地域の意見の集約も大切ですが、10年後、10年後の街の在り方、教育環境の在り方を、外部意見も取り入れ検討を進めてください。
	35	多くの課題があることがわかりました。検討するために、様々な視点が必要ですが、学校は、そもそも児童・生徒のためにあると思います。最終的な判断にあたっては、児童、生徒にとって最善であることが尊重されてほしいと思います。
	36	Q&AのQ2にもある通り、これまでは予算の問題で30人学級は難しいという事実があったが、法律の編制人数の規定が小・中学校ともに「上限」であることを利用して、児童・生徒数の減少を少しの間耐えれば、特に予算措置をしなくても、30人学級の編制が可能となるのではないかと。それまで頑張ることはできないのか。通学距離3キロメートル・45分というのは、どう考えても小学校低学年にはキツすぎるし、スクールバスを運行するにしても財政的な負担等も増えるし、車内置き去りなどの事故も心配である。
	37	各地区内に小・中学校は維持してもらいたい、それができない場合、統廃合により通学路が非常に遠くなったりするので、児童・生徒の安全確保ができるよう歩道整備や見守りなどの対応は必要不可欠。

	38	岐阜・山県市教育委員会は小中学校の統廃合をせず他校との合同授業や異年齢学習を使い分け小中一貫教育に乗り出すという。学校には地域のまちづくり・文化を守る役割もあるため安易な統廃合はすべきではない。厚木市教育委員会にも新しい試みに乗り出すくらいの意気込みを持ってこの問題に取り組んでもらいたい。
	39	統廃合は仕方なく、決して悪いことだとは思っていません。今後、自分の子を厚木市の小・中学校に通わせていく方針です。なので、この問題はとても興味があります。地域防災の拠点という観点はとても大切だと思います

取組の考 え方・進め 方・スケジ ュール (73件)	40	学校統合により、クラスでの生徒のいじめ等、合わない子どもがクラス分けにより改善され少しでも不登校生徒がなくなるのではないかと考える。(1クラスでは6年間いじめにたえられなく不登校生徒が増えるのではないか。)地域のコミュニティバスを走らせ学校通学や親の学校への足をつくれれば良いと思う。少し距離もあるし、夕方の帰宅も心配なのでコミュニティバスは必要である。親の送り迎えの車も少なくなると思う。
	41	教育は将来を担う子どもを育てる大事な礎です。効率化一辺倒で行ってほしくない。
	42	子ども中心に考えていただきたい。
	43	統合すべきではないと思います。
	44	小中学校の適正規模・適正配置の取組については、教職員の多忙化の解消やそれに伴う教育の質の向上、施設の老朽化やその修繕費を含む税金の適正利用など、様々な観点から必要なことと考えています。安全性や地域性などを考えて進めていただきたいです。玉川小学校はハザードマップを見ると、土砂災害の警戒区域の近くにあり、通わせるには安全面で不安があります。森の里は四季の道など、安全面の配慮が様々にされていて安心です。そのため、小学校は森の里小学校を維持するべきだと考えます。中学校は毛利台小学校からの児童も入学することなどを考えると、森の里中学校ではなく玉川中学校を維持するべきだと考えます。そうすれば、問 8-2 の観点からも良いのではないのでしょうか。また、先日の説明会の際に小中一貫校にしたら良いという意見がありましたが、それについては反対です。小学校には小学校の、中学校には中学校の良さがあると考えているからです。中 1 ギャップの解消についても、環境の変化を無くすのではなく、順応していけるように育てるべきだと考えるためです。
	45	子どもたちが自分の足で通える学校があることが重要だと考えます。
	46	統廃合をすることに対しては、児童数の減少で仕方ないと思うが、通学の距離と時間がとても心配。また、子育て世帯が定住地選択として小学校までの通学距離や時間を重視していると思うので、さらに減少してしまうのではないかと心配
	47	児童・生徒数が大きく減少していることが、大きな要因として理解しました。また、教職員の多忙化問題は、児童・生徒数が大きく減少していることと相反する事象で、別の要因で発生しているものと思いますので、今回のアンケートに入れることは不適切と思いました。この調査を行う上では、基本理念である「未来を担う人づくり」を実現していくためには、「どのような目標、目標値」を、「いつまでに」、「どのように」実現していくかという見方が見受けられなかったもので、その点を織り込んでもらえると、より広い視野に立った回答ができると思いました。今後については、現在、国が進めようとしている少子化対策の方向性を踏まえうえて、どのようにしていくかを検討されたいかがでしょうか。一度廃止したものを、復活させることに大きなエネルギーが必要だと思いますので。
	48	今年度の話し合いでは、未定という話でしたが現在森の里内で数年後に統合されるという話をよく聞きます。実際はどうなのでしょう。この数ヶ月の間でそのような話になったのでしょうか。すでに決定のような話になっていると聞いていますが、もう説明はないのでしょうか。この前の森の里の説明会では反対意見が多かったと記憶しています。そこでの意見は反映されているのでしょうか。
	49	アンケートにおいて誘導的な設問がなされており、それを前提とした計画案は意味がないではありませんか。

取組の考 え方・進め 方・スケジ ュール (73件)	50	今回の適正規模・適正配置の問題に関して特に問題と考えるのは、適正配置です。森の里・玉川地区に関しては交通の便(路線バスでの通学した際の路線時間の無さ、自転車通学許可をしても山越えとなる負担)などがあり決して良い状態ではないと考えています。地域での犯罪等があり仮に保護者が送迎することになった場合にも、送迎通学への負担は大きいものになると思います。仮に通学バスや自転車登校などを導入したとしても、私の小中学生時代よりも学生の荷物量の増加などがある今の時代に、わざわざ離れた場所への通学負担はいささか可哀想だと思います。森の里・玉川地区内でも地域内距離があるのに、これ以上の距離負担をさせる必要もないのではないかと思います。確かに児童・生徒の減少による問題も多くあるとは思いますが、一番負担になるのは、通学する児童・生徒と保護者の方々だと思います。また、別問題とはなりますが、教職員への負担軽減策も議論していくべきではないか。と思います。人数が少なくなる分の教職員による学習面のサポートや私生活へのサポートにつなげられるような環境作りをすることの方が大切なのでは。
	51	森の里小・玉川小ともに小規模であり、デメリットが大きいので統合すべき。適正配置に当たっては通学区域が広いため、小学校はスクールバスが必須。森の里中も小規模であり、玉川中と統合すべき。小学校と同様通学区域が広いので、スクールバスまたは自転車通学を検討すべき。
	52	地区ごとに統廃合の基準を変えるべきだと思う。もともと森の里は研究学園都市をうたっていたはずで、その地区から小・中学校をなくすことは、他地区から小・中学校をなくすことと大きく意味が違う。教育環境を重視する人向けの街である森の里の価値を大きく下げることにつながる。研究学園都市としてテコ入れするどころか、その価値を失わせるような施策は避けていただきたい。少人数学級や公立小中一貫校など、研究学園都市として、少子化時代でも充実した教育が施せる街を目指していただきたい、玉川地区と統廃合するのではなく、森の里地区の独立性と教育環境向上を目指すべきだと思う。
	53	現在の小・中学校は規模を縮小しても全て残すべき。教諭の地区間にわたった勤務や、アルバイト教員の利用など運営を工夫したらよい。また、余剰教室には、公民館、自治会館などの機能を持たせて地区コミュニティで有効活用。場所を一つにして、小・中学校でシェアする。あるいは小・中一貫にする。
	54	登下校時の事故。犯罪に巻き込まれない。高齢ドライバー増加による交通事故。学校老朽化、費用、職員確保、働き方改革等、問題は沢山考えられる(騒音 etc...)。ゆったりした環境で子どもたちは勉強、保護者は安心、仕事との両立、職員はマイカー通勤OK、ムダな業務はパート等、未来の宝の子どもたちを大切に育て、はぐくめるよう、皆が喜び、向上できるよう。大規模→スクールバス、広域から通学、住宅密集地で古い物は別に利用。小規模→カウンセラー、様々な補助。
	55	玉川地区と森の里地区との交流などを踏まえ、例えば、小学校は森の里、中学校は玉川とする、また、その逆もあるものと思います。第一は、何が子どものためになるのかという視点で検討すべき。

取組の考え方・進め方・スケジュール (73件)	56	森の里地区は市制施行前には住宅地としては存在しておらず、1980年代に開発された地区となり、玉川地区とは住民のバックグラウンドが異なります。二つの地区を一つの地域とする考え方は適切ではないと考えます。玉川地区と森の里地区はそれぞれ異なるバックグラウンドを持ったため同じ地域とは考えられません。それぞれの地区でそれぞれ一つの学校を維持すべきです。二つの学校を一つに統合した場合、学校がなくなる地区にとっては、地域から学校がなくなってしまうことと同様に認識されます。それぞれの地区に学校を残すようお願いします。
	57	問8で、「できれば維持」と思ったのは、児童にとって玉川・森の里が統合されると通学が大変かな、と思ったからです。維持・管理に必要な人員や経費、その他たくさんの課題があると思うので難しいとは思っています。単純に、もっと子育て世帯が玉川、森の里の良さに気付いてほしいなあと思います。自分は子どもがいないのでなかなかお手伝いできることはありませんが玉川、森の里や厚木のために何かできることあればやりたいです。大変かと思いますが頑張ってください。小さい学校って先生側には人気があると聞いたことがあるのですがそういったのはアピールとかにはつながらないのかな。
	58	少子化は、私たちには仕方がないことだと思います。例えば玉川と森の里でどちらか一校となった場合、小学低学年では、通学が大変になるので、スクールバスを出すとか、安全に心がけてほしいです。森の里小学校が老人施設になるという噂が早くからありますが、森の里は、現状老人(70才以上)の多い地域です。つくるなら早く計画した方が良いのではないのでしょうか。寿命100年の時代とされている現代、子どもにも老人にもやさしい市であってほしいですね。
	59	地区の児童・生徒数が減少傾向であっても、できる限り森の里小学校、森の里中学校はそのまま存続していただきたいです。
	60	森の里は通学路がほぼ遊歩道で、バツグンに環境が良いので(登下校の安全面において)、そして、そのためにうちはわざわざ越して来たので、そのような良さはぜひ残してほしい。私の実家の方では、人口5千人程度の町に小学校1つ程度なので森の里地区の子どもの数が減ったとしても、統合するほどかどうかは疑問。子育て環境としては大変良いし、文化水準の高い方が多くて暮らしやすいので選択制で選べるような制度を試してみても良いのになあと思う。ただし、少人数制の私学を経験していて、少人数の弊害は身にしみて知っているので、ある程度の規模は必要だと思う。それと、閉鎖的にならないことが必要。地域性をいかした厚木市ならではの教育内容に期待します。小・中でいろんな体験をさせてもらって、自分の特性に合うスキルを身につける希望を抱いて自分で納得して生きて行けるような教育が理想です。(中学で勉強だけになるのは残念)
	61	現在において、玉川地域という名称が出されるのが、理解できません。相互の住民の意識は全く違います。それぞれの共通点はほとんどありません。それぞれが独立した地域として、対応することが望ましいと思います。
	62	森の里地区に玉川地域の小学校・中学校のいずれかを残して、地域荒廃を防いでほしい。若しくは小中一貫教育のモデル地域として教育に関心のある住民を集めるきっかけとなってほしいと考えます。
	63	玉川小・玉川中に通学されている方に森の里まで通学する意志がある方は通学していただいたり、県内の障がい者学級で学校建物を使用していただくなど(迎いのバスを見かけますので、この地域、近所でも必要とされているかも知れません。)必ずしもこの地域に住まわれている方だけを対象にしなくても、良い気がします。このご時勢・時代ですので。

取組の考 え方・進め 方・スケジ ュール (73件)	64	クラブ活動、運動会、文化祭等を合同で実施したらどうか。昔に比べて学級の生徒数が少ないのに、教師が忙しいのは何故か。余計な仕事をさせていないか。空き教室は地域で活用したらどうか。(老人の家とか、喫茶とか、サークル活動とか。防犯の観点からは難しいかもしれないが。)
	65	森の里・玉川の小・中学校の児童・生徒は少ないので、春夏秋冬、短期間、森の里から玉川へ、玉川から森の里へ児童・生徒交流授業してはどうでしょうか。
	66	地域の中央部に学校があれば統合も可能かもしれない。小学校については通学距離、時間等で短ければ良いが、30分以上の通学時間がかかるならば難しい。又中学校の通学で自転車通学が認められれば可能(統合について)ではあるのではないかな。
	67	森の里に住んでいます。子どもたちの数がいくら減少していても、小学生が玉川の学校まで行くのは負担が大きすぎ、かわいそうです。小・中学校は公立ならば、歩いて行けるのが基本で、親の負担にもなります。せっかく家を建てたりして森の里に住もうと思っても、子どもを通わせる学校がないと思うと、住む気もなくなるので過疎化につながります。学校は近所に1つは必要だと思います。(小・中の学年が混ざったクラスになったとしても)小中一体型にしてほしい。
	68	厚木フィルムコミッションに登録し、生徒が使用しない時間を撮影に利用して収益化、認知の拡大で住民を集めるなど、人を増やす方向で学校を維持していただきたいです。避難場所として維持されるべきだと思います。
	69	単純に通学区域の再編成や学校の統廃合を語るのは良くないと思う。厚木市の小・中、高校も含め、他市から見て魅力的となる施策を考えることが必要。若い世帯の住環境を整備、小中一貫校、部活動で国民体育大会を目指せるような指導者を呼び、多くの小・中学生が来くなるような学校整備が必要と考える。
	70	いじめや人間関係の形成等、学校内の課題が山積していると思います。小規模・少人数でしっかり課題を解決してから統廃合を進めるべきと考えます。玉川地区と森の里地区での学校同士や地域コミュニティ団体との交流を図りその土壌も作ってほしいです。
	71	中学は玉川、小学校は森の里、などどちらか片方ずつにしたら良いと思う。ただし交通整備が行き届いてない場所が多いため、地域の方の見守りや市役所などで通学路の整備などが必要となる。これらが不可能な場合は学校を統合するべきでない。登校中の安全が第一である。
	72	少人数学級にするためには負担や課題が多いと資料にあるが、この説明だけではやや納得出来ない。教員以外の者の取組が足りないのではと言われるのではないかな。森の里地域は子どもの人数が激減しているし、今後もあまり増加は見込めないと考えているので、玉川小・中学校との統合も致し方ないと思うが、学校が遠くなると森の里に移住してくる子育て世帯はますます少なくなるのではと懸念している。また、仮に森の里から玉川小・中学校に通学することになった場合、児童・生徒の通学路の安全、あるいは通学手段にも配慮が必要だと思う。特に朝の通学時間は坂道を自転車で登ってくる西高の高校生とぶつかってしまうのではないだろうか。最後に、確かに大きな敷地の学校があまり活用されない、利用しにくい状況は勿体ないと思う。予算をどのように有効に使うか、また私たち地域住民の意見と教育の現場の考えを上手に掬い上げてほしいと思う。今後どのように計画が進むのか分からないので、またこのようにアンケートを取ったり、説明を尽くしてほしいと思う。

取組の考え方・進め方・スケジュール (73件)	73	子どもの健全な心身の育成を第一に考えていただきたいです。そのためには保護者の負担を減らし、自身の心身の健全を優先させてほしいと考えています。地域との関わりに利点があることも理解できますが、働く保護者にとってPTAとしての仕事の増加が、負担の一因になっていることもあります。教員についても同じことが言えます。地区内に学校があることで保護者は安心して通わせることができます。なくなれば森の里地区の子どものいる世帯の流入は見込めないと思います。
教育環境 (43件)	74	小規模の学校に通わせたいという保護者もいると思うので、厚木市全ての学校を適正学級の学校にするのではなく、例えば森の里は小中一貫校の特認校にして、希望する人はここに通わせるなどの選択の余地があると良いと思う。
	75	現在、森の里地区における小・中学校の適正化問題について、小中一貫(一体)の案が出ていると聞いたが、是非ともその案を具体的に検討してほしいと思っている。というのも、地区の中に学校がない場合、通学の負担や、安全性についての不安が増すからである。(国の基準は、保護者の立場としてはとても現実的ではない。)また、それだけではなく、必ずしも大人数であることが全てにおいて少人数よりもメリットがあるとは言えない。それぞれにおいて、メリット・デメリットがあるのでそれぞれの特性をいかす学校づくりをしていくことが大切と考えている。現時点では生徒数が減っていくという見込みかもしれないが、この適正化問題を通じた取組の方法によっては、生徒が増えていく可能性もあると思うため、後ろ向きではなく、前向きな方法でこれからの在り方を考えていただきたい。
	76	森の里小・中学校、玉川小・中学校、それぞれの小・中学校を統合する案はどうでしょうか。校舎の維持・管理費は削減でき、各地域の方々も、通学距離の心配もなく、防災拠点を失わずに済みます。教職員の数は減らすことにはなりません。少人数の生徒に対しきめ細かい対応も期待できないでしょうか。生徒たちも年少者が年長者を頼り、年長者は年少者を気遣う学校の在り方も良いのではないかと思います。
	77	Q1～Q3(資料)は手短かにまとめられていてとても良いです。直接関係ないかもしれないが、森の里地区の児童・生徒数減少に対しマイクロでの通学とかどうでしょうか。遠くは難しいですが、小中一体型施設のモデル校としてみてはいかがでしょうか。
	78	一地区に小・中学校があることが良いと思います。学童・生徒が減少して学校を運営することは難しいと思います。玉川地域は厚木市の中でも地域が広いところと思われます。学校を減らすことは通学の負担が多くなってしまうと思われます。児童・生徒が少ないのも問題が多いと思います。森の里地区は世代交代が始まる時期だと思います。市や住民が協力し、若い世代の住民が多くなるよう検討、実行すれば長い目で見て児童・生徒の増加も夢でないような気がします。皆さん頑張りましょう。
	79	玉川地域の場合、小・中学校の立地が集中しています。「小中一体型施設」に変更しやすい条件であると思います。「小中一貫教育」には、問題点が多くあり、実現に時間が掛かりますが、一体型施設には、教育的にも利点があり、早期実行が可能だと思います。
	80	できれば、小中一貫校の考えに賛成です

教育環境 (43 件)	81	アンケートの回答でいくつか小中一貫校にしてはどうかという案があったが検討しても良いと思う。その理由については、玉川・森の里どちらにしても小学校、中学校が地域内にない、あるいは、遠くなってしまうことで、子どもの通学が困難になるだけでなく、その地域に住もうと思う人が減る。さらなる地域の衰退化につながることは目に見えている。住む人にとって学校は、子どもが学ぶ場所であることはもちろんその地域を存続させていく鍵になる大事なものだと思う。一学年のクラスの数によって統廃合対象か否かを分けているが、その地域ごとの状況に応じて方法を考え、いかに学校を維持させていくかを考えたい。小中一貫校にすることで、校舎管理の手間の軽減、費用の削減につながるのではないかと。
	82	率直に、今回の森の里・玉川両学校の統廃合は反対です。やはり地域から学校が無くなることは子育て世代の減少、地域の衰退につながる心配があります。わが家も5年前に森の里の豊かな環境での子育てを望んで移り住むことにしたのですが、今後せつかく恵まれた環境にも関わらず衰退してしまうのは余りにも寂しく感じます。資料にあるように、小中一体型施設への検討も是非、進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
	83	森の里に学校がなくなると地区内は衰退してばかりだと思えます。小中一貫校設置の検討をお願いしたいです。
	84	森の里小学校が全生徒 1,000 人、中学校が 1 学年5～6クラスあった時に通学していました。今は1学年1、2クラスしかないと聞きます。校舎も広く、私が通学していた時は増設するほどだったので、空き教室が増えているのだらうなと思っていました。制度が難しいのかもしれませんが、小・中学校を統合するなど、少人数を利用して子どもたちが様々な年齢の人と関わられるようにしても良いのかなと思いました。
	85	施設の老朽化の状況を踏まえ、小・中学校の敷地のどちらかに別棟としてもう一つの学校を建設し、校庭は共同で使用する形で良いのではないかと。例えば、小学校に校舎を集める場合、空いた中学校の敷地は、転売、又は、特養老人ホームにしてほしい。
	86	各地区内で 1 校は必要(小中一体型で可)
	87	小学校は必ずそれぞれの地区内に学校を維持することが絶対必要。中学校はできれば維持してほしいが、統合することも1つの選択肢かも。又は、これからは全国的に子どもの数が減ってくるので小・中学校9年間教育の場として一貫校と考えるとどうでしょうか。子どもの数が減るから学校を減らすと考えないで、新しい教育環境を考えたらどうでしょう。全国に先立ち、厚木市ならではの方法を行政と市民で考え、他の市町村からも手本となるような子どもの未来を考えてください。よろしくお願いいたします。
	88	森の里小・中を小中一貫校にするのはどうか。
	89	登下校中の安全面の観点でも、森の里には学校を残すべきだと強く思う。森の里中学校と森の里小学校のどちらかを使って、小・中学校(合同)にしてもよいと思う。
	90	特徴のある学校づくり(小中一貫校)をして、学区外からの生徒を呼び込み、若い家族を呼びこんで、新たな街づくりに協力してもらおう。マンモス校になっても 10 年以上経過すれば減少になるので、学校適正化に工夫が必要です。
	91	小・中学校をその地域で維持して統合してほしい。子どもたちもそう思っていると思います。

教育環境 (43 件)	92	小学校と中学校の同一の施設の中で小中一貫教育ができたと思います。地域内に学校がなくなったら今以上に若い人たちは住まなくなります。
	93	地区により生活環境も違っている。小・中学校で統合してはどうだろうか。
	94	神奈川県は小中一貫教育を推進しています。地域との関わりを通して学ぶことも大事です。森の里小と森の里中の一貫校を設立し、特色ある教育を展開していくような前向きな対応を望みます。よろしくお願いいたします。
	95	「小・中一体型施設」の整備により、小学校あるいは中学校のいずれかを残し、森の里地区内で就学できることを希望します。中学校は、希望者のみ、玉川中学校へ転校(部活動の充実のため)することを希望します。
	96	小中の連携でも良いので、それぞれの地区に小・中学校それぞれの維持が必要だと思います。(2地区の連携ではなく)
	97	小中一貫という考えはないのでしょうか。そうすれば、どちらかの学校を公民館のように一般に開放すれば良いと思います。公民館は中々取りづらいので。
	98	地域内で小・中学校を統合した方が良いと思います。
	99	小中一貫教育が、本来の目的と必ずしも違うこととは思えません。教育的な効果を目指すことが、これからの子どもたちに必要なことからです。
	100	参考資料 P10 の Q3 にもありましたが、小中一貫校というアイデアは積極的に検討すべきことと思います。学校規模の偏りとは目的は異なることは理解できますが、思わぬ所に相乗効果がでるかもしれません。学校規模の問題と同時検討するのが良いと思います。
	101	学校施設に係る経費などを考慮し、統合等を図るのであれば地域ごとで、小・中学校を統合すれば、各々、地域コミュニティの拠点としての機能が維持されるのではないかと考えます。
	102	息子が森の里小学校・中学校を卒業しました。4年後・6年後には、二人の孫が小学校に入学する予定です。思い入れもありますし、孫に通学で苦労はさせたくありません。玉川地区・森の里地区それぞれで小学校と中学校を統合し、一貫校とするべきです。空いた校舎は防災拠点 & 地区の文化・スポーツ等の交流の場をお願いします。
	103	児童の人数が減っているのは承知しておりますが、森の里地区に学校がなくなるのには反対です。森の里は地域の方々の協力で学校行事にもいろいろなイベントを行なっております。どうか、小中一貫校にするなど、学校を残して下さるようご検討宜しくお願い致します。
	104	小規模な小・中学校のデメリットによる悪影響は少ないと考えます。多様な考えに触れる機会はとても重要だと考えており、同学年との集団行動を増やすことは効果が小さいと思います。効果が大きいと思うのは、他学年との交流で社会の多様性を学び体験できる機会だと考えます。そのため、小中一貫教育には賛成です。少子化も影響していると思いますが、少子化問題に対しては「少子化を受け入れる」準備をすることとし、小中一貫教育を優先的対象校に導入することも将来の準備となると考えます。
	105	小規模校でのメリットがとても多く、現状を維持していただきたい。児童一人一人の結びつきが強く、別学年との縦のつながりも自然と持つことができ、面倒を見てもらったり、見る側になったりと良い点も多いです。そのため安心して子どもも過ごせている。

教育環境 (43 件)	106	児童数が減っていくことは、現状の日本では全国的なことであり、今後しばらくはこの流れが続くことは明確である。しかし、学校が小規模であることがあたかも悪であり、対処すべき問題であるという認識自体が間違っている。学校、特に小学校は地区連携の最も重要な拠点であり、統廃合すべきではない。小規模校にもメリットがあり、全ての学校が、大規模校と小規模校の間を目指そうという発想自体が間違っていると感じる。
	107	法律基準 35 人(小学校)、40 人(中学校)の上限をもっと下げるよう、働きかける。
	108	学校は減らさず、一クラス 20 人以下の少人数教育を実現させる、また、教員の数を増やし、手厚い教育を行う。外国籍生徒の日本語教育及び学びの保証をしっかりとする。個を尊重する教育にシフトし、例えば演劇(表現)教育などを導入していくなど、コミュニケーション能力や、人権意識を高めていく教育、インクルーシブ教育等々、子どもの能力のボトムアップのきっかけにしてほしい。
	109	森の里地区の児童減少については、地域との連携により、子どもたちへの成長への弊害はないと感じます。PTA や公民館のイベントなどで様々なイベントを催し、地域とともに子どもの成長を促しています。通学の面からも玉川に通う、もしくはその反対であっても少々無理のある距離に感じてしまいます。どうしても避けられない再編成であれば、森の里小学校・中学校の一貫を望みます。
	110	教員の負担が偏り過ぎぬよう、定期的な見直しを図ることが望ましいと思います。また、必要に応じてコロナ禍で取り入れ始めたオンラインを(部分的にでも)活用する手段についても検討いただければと思います。
	111	教員の忙しさや問題のある子どもなど、一人の担任で対応しきれていない。1クラス 20 人程度でゆとりのある環境を整えられたら良い。
	112	玉川小学校の半分を市の老人施設にする、あるいは保育園にする。玉川中学校の半分を市の老人施設にする。森の里小学校の半分を市の保育園にする。森の里中学校の半分を市の老人施設にする。
	113	質問内容と選択肢が小中学校の付随的な役割についてウェイトが置かれている印象である。義務教育の充実に関する質問が欠落している。また参考資料から見てくる基本姿勢も義務教育の充実より、教育行政の効率化・コスト削減に重点が置かれている印象である。少人数学級に関するデメリットとして挙げている内容もいかにもステレオタイプの説明であり、かつ悲観的過ぎる内容である。また少数学級とその背景にある少子化問題は厚木市だけの課題ではなく、日本全体の課題である。ついては厚木市としての独自性、創造性が全く見られない。小学校から中学校まで一学級で同じ顔触れで学んだ経験を持つ者として、もっと独創性ある教育システムを提案してほしいと思う。
	114	国の子どもへの支援でまた人口が変化していくと思う。学校が近くにあって通学できることは若い家族の転居やその地で育った子どもが戻ってくるためにも必要。(厚木ばかりの問題でなく)国が教育に対する考えを再考してほしい。小規模校は其中で2クラスに分けるなり、先生も 60 歳以上でも(優秀な先生も多いので)減額して勤務していただくなど、フレキシブルに対応してもっと長い支援と協力をお願いしたい。日本は教育の充実がなくなったら衰退していくばかりです。

教育環境 (43 件)	115	これからの行政は、それぞれの地域の特性にあった教育論を示すべき。特色ある学校は、学校自らが創造するだけでなく市としての責務として対応策を創造するべき。教員は県の費用負担で、その学校を創り上げるのは市となっており、市の責務が不足している。それぞれの地域の特性をふまえた学校の在り方を市が示すべき。教育論は国にゆだねるべき。今後も玉川小・森の里小の人数が減り続けたら他地域に再編成するのか、30 年後はどうなるかなども考えるべき。
	116	「米百俵の精神」という旧長岡藩の尊い精神を提示され、きっと高い志に則った改革になるに違いないと信じておよそ二十年、日本は本当に自国民の教育にお金を掛けてきたのでしょうか。効率化やコストパフォーマンスなどと言う素晴らしい言葉に酔いしれて、先人たちが蓄えてきてくれた真の豊かさを切り売りして、誰かが飲み食いして散逸させてしまうような二十年ではなかったのでしょうか。確かに今の人口動態の特徴は少子化傾向を示しています。だからといって、では学校の数もスリム化しましょう。は、長い視野で物を見ていないように思います。他に見直すべき不必要な散財はないでしょうか。また、参考資料にある学校の適正規模は国際的にも通用するものですか。外国から来たばかりの子ども、日本でも不登校で悩んでいる子どもが隣の学区、しかも小規模の学校に移って心機一転することができる選択肢があれば、助けになる可能性もあると思います。大切な子どもたちを一人残らず、社会に元気に送り出してあげることこそ、先々国家を潤すことになることも忘れてはならないと思います。一度減らした学校、優秀な教師の補填は難しいです。熟考をお願いします。
通学関係 (25 件)	117	車の交通量の増加を考えると、子どもが安全に通学できる環境であり続けるべきで、合理化のために学校を減らすことで安全を確保するのが難しくなること(遠い、危ないなど)は避けるべきだと思います。
	118	学区再編成や統廃合の検討と同時に、通学時間や方法通学路などについても調査していただき、子どもたちの登下校の安全などについても検討していただけると良いと思います。
	119	玉川地域は学区が広いため、児童・生徒への負担は大きいと思われる。地域との関わりを考えていく必要があると思う。
	120	通学時の安全、特に交通安全の対応についても考慮すべきだと思います。
	121	児童・生徒の安全(通学・災害時)の対応等を第一に考えていただきたいです。統廃合によって教員の勤務に負担になったりしないこと、又、クラブ活動等児童・生徒のマイナス(森の里中では、子どもたちが望む部活動が減少しているようですが…)にならないよう、厚木市で育って良かったと思える環境になるようお願いします。
	122	学校の統廃合をする場合、通学路は安全な経路になるよう、十分に検討してほしいと思いました。

通学関係 (25 件)	123	適正規模・適正配置によって、小・中学校の統廃合があることは、地区としては残念なことであるとは思いますが、多くのメリットもあり、仕方がないことだと思います。しかし、統廃合されることによって、通学路が長くなることで、通学時間が負担になり不登校の一因となったりしないかが心配です。市内の小学校では、様々な理由で保護者が子どもの登校を支援できない例がみられます。そのことで、児童の遅刻や欠席が多くなり、やがて児童は勉強が分からなくなり、学校から足が遠のいてしまいます。また、通学途中の安全・安心が損なわれないか心配です。小学校では、朝を中心に地域の献身的な見守りが行われています。統廃合があっても、この地域の力は継続されると思いますが、通学路が長くなり、通学に時間が掛かるようになれば、安全・安心へのリスクは高まってしまうと思われます。
	124	通学時間が長くないこと。通学経路に危険が少ないこと。そのため通学手段を柔軟に運用すべきである。とにかく統廃合によって事故・事件に児童・生徒が巻き込まれないように配慮してください。
	125	小学校低学年の子どもを、通学のため何 km も歩かせるのは問題だと思います。統廃合するのであれば、体力や安全を十分に配慮していただきたいです。
	126	通学距離が長い場合の小学生の通学手段等も十分に考える必要があると思われる。
	127	統廃合をするなら、必ず通学バスを運行させてほしいです。遅刻、早退時の対応も事前に考慮いただきたい。PTA も廃止していただきたい。両親共働きの家庭も多いので、統廃合により発生する負担を全て親が負うとなると転校(移転)を余儀なくされる家庭もでてくると思いますし、この地域へ転入してくる現役世代もいなくなると思います。また、生徒が増えるので、教員の質もきちんと管理いただきたいです。
	128	小・中学校の適正配置は仕方ない。通学が遠くなってしまう、又、防犯上の理由からスクールバスを導入してほしい。
	129	適正配置についてはスクールバス等を利用するなど、総合的な検討ができないのでしょうか。
	130	小中学校の統廃合で通学距離にどうしても差が出てしまうため、自転車通学の許可等は出した方が良くと思う。校舎の一部を駐輪場にするとか。もちろん安全運転交通ルールの徹底は必要でしょう。
	131	通学の負担軽減のため、通学手段の整備、可能な限りの宿題のDX(デジタル化)が必要と考えます。
	132	学校を統合する場合は、スクールバスでの登校を望む。あと教育関連に携わる人全員犯罪履歴が無いか証明してから職に就けてほしい。先生は教科書を読むだけの人は辞めてほしい。学校規模適正化の方策として小中一貫校には賛成です。
	133	学校を統合するに当たり、昔とは違い、親世代の送迎負担が増えることにより、仕事への更なる負担も多くなり、一部には負担が厳しい方々も増えてしまうと思う。スクールバスなど考えてあげてほしい。森の里は小・中学校が近いことなどを理由に、森の里への転居や移住を考えている若い世代、既に住んでいる方々がいることを考えると、統合は簡単にできる問題ではないと思う。又、老人ホームをつくるという噂もあり、街全体を老人のためにするならば車がないと生活できない環境をどうにかしてほしい。森の里は1～5丁目までであるが、昔から住んでいる老人が生活するにはスーパーぐらいしかなく、車に乗れない人には不便さがあり、自分自身の老後を考えるとこのままでは長く住める安心を得られない。どうにかしてほしい。

通学関係 (25 件)	134	山間部にある小・中学校を統廃合すると通学に支障が出る児童がいる可能性が高いので、自転車やバス通学の許可、それに付随した交通網の整備をしてほしいです。
	135	都市部においても、生徒数の減少等で総廃合が進んでいます。通学手段を検討して(バス・スクールバス)統廃合ありきで進むことが望まれる。
	136	統合により通学が遠くなる場合、米国のようにスクールバス等の手段を導入するべきであろう。
	137	玉川地区と森の里地区は、七沢森林公園によって隔てられており、どちらに統合するにしてもスクールバスは必須だと思う。
	138	統廃合すると仮定すると、玉川の小・中学校に森の里小・中学校が吸収される場合、児童が森の里から学校までの送迎バスがあると親の負担や安全上良いと考えます。(娘が幼児ですが、車の送迎が必要になる場合は市外へ引越しを検討します)
	139	4月から子どもが小学生になります。小・中学校の統合にこれから重なると思うので、遠くの学校に行く場合には通学バス、もしくはバス代を出してくれるなどしてほしいです。もし森の里から玉川中に通うとしたらすごく大変だと思うので、子どもへの配慮をしてほしいです。(森の里のぐるっとのような無料バスがあるとありがたいです。)
	140	統合された場合は、通学について考慮すべき。公共交通の確保と補助、スクールバスなどを検討していただいた方が良いと考えます。
地域づくり・ 地域コミュニティ (43 件)	141	適正配置化によって通学距離が遠くなる児童・生徒が出てくるでしょうから、自転車通学を可能とするなどの配慮もお願いしたいです。
	142	そもそも玉川・森の里地区は自然環境に恵まれた住みやすい地域、なぜ子どもたちが減少するのか、減少しないためには何が必要かを検討すべきと考えます。日産及び企業も誘致され、社員(人)は多い、新道路も整いつつあり、足りないのは総合的ショッピングセンター(現在店舗がバラバラで1ヶ所では済まないの店舗の集約や運動・遊びの場レジャーの併設等)(籠堰橋辺り)があれば人が集まり住みたい条件が揃う。学校問題と共に検討していただきたいと希望します。
	143	既に住宅地として開発されている森の里地区を大いに活用すべきであり、利便性を向上させ住民の誘致を図ることを同時で推進すべきだと思います。

地域づくり・地域コミュニティ (43 件)	144	森の里地区に小・中学校を維持していただくようお願いいたします。理由は以下です。 ・全国的に若い世代の人口が減る中、各市町村はいかに子育て世代を引き留めつつ、他から集めることができるかがその市町村の将来の活気を決める ・森の里はリビング、パーク、テクノロジー、アカデミックという4つの機能を配置するコンセプトを持って拓かれた全国的に見ても先進的で魅力のある街である。厚木市としてこの地域を維持し、発展させることは子育て世代を呼び込む良質なコンテンツを保持することにつながる ・森の里地区は 40 年前に開かれた新興住宅地であり、当時移り住んだ方々が高齢層となり留まっている。長寿命社会となった現代では傾向として、子どもが減って見えるのは当然の流れといえる ・子育て世代にとって地域内に小・中学校があるかどうかは住まいを決める上で大きな判断材料となる。小・中学校を無くすことは、これから進めるべき健全な世代交代の阻害要因となり、将来的に厚木市がこの良質なコンテンツを失うことにつながる ・街づくりというものは 100 年単位の視点に立って進めるべき公共事業である。将来を見通し、短期的な損得を追わないよう切に願う
	145	すでに学校運営協議会制度・地域学校協働活動推進事業をスタートさせていて、地域とともにある学校づくりを推進している段階で学校の統廃合を行なうという、相反する政策を進めること自体がおかしい。森の里地区が成り立ったまちづくりの基本事項を再度見てもらいたい。その基本事項をもとに私たちは移り住んでいるのです。まちの価値を上げ、若い世代が住みやすいまちにしたい。
	146	森の里地区は高齢化が顕著なので、子育て世代に移住してきてほしい。そのためには、地区内(安全に徒歩で通学できる範囲)に小・中学校があることが大前提となる。少子化対策を国で進めている中、厚木市も自慢できるくらいの思い切った方策を打ち出してほしい。
	147	地域に学校がなくなれば、今後、定住者自体が更に少なくなり、大規模に地域の見直しをしないと巻き返しが厳しくなると思います。我が家にはまだ子どもはおりませんが、地域に学校がなくなるのであれば引っ越しも検討しようと思っています。
	148	少子化による児童・生徒数の減少を前提とした施策を検討する以前に、若い世代が地域に留まってくれる、移住してくれるような街づくりを期待します。学校の統廃合は合理化には有効であることは理解しますが、未来永劫、継続的な地域の活性化にはネガティブであると考えます。小・中学校の「適正」を考える前に地域の人・文化の「適正」を考えてください。

地域づくり・地域コミュニティ (43 件)	149	従来のいわゆる学校のイメージにとらわれることなく、生涯学習やスポーツ、文化の拠点として、図書館、公民館、体育施設、文化ホール的な複合施設でもよいと思います。学校だけの視点ではなく、地域と交流しながらその中に教室があり、時には地域の方が出前授業などして、教員だけでなく保護者や地域の方も教育に携わることも良いと思います。また、小中一貫校との意見もありますが、思っている以上に難しいと考えます。形から入るのではなく、現場の先生方の意見や、現状の課題の見通しをもってから議論すべきだと思います。懸念することは、立て直しや新校舎をつくるとき、国の動向によって無駄な施設や機材を増やさないように願いたい。またその維持・管理まで見通しをもたないままつくことも避けてほしいし、つくったからにはそのメンテナンスにもしっかり予算をつけてもらいたい（現在市内の小・中学校で、必要な備品がなかったり、老朽化で児童・生徒の安全が担保されていない、LL 教室や PC 教室などほとんど使われていないなど聞いたので）。
	150	住宅を購入するに当たり環境を重視した(スーパーや学校があるから今の所に住んでいる)。統廃合をするという話は聞いていない。住人が増えるような努力(バス・モノレール等)をしていないのは市の責任である。統廃合には反対である。
	151	小・中学校の取組ではないが、森の里地区に子どもたちが少ないのは、若者世帯が住むには、魅力がないからだと思う。銀行もなくなり、コンビニ建設の話が出て、反対がでる。市として、森の里地区をもっと魅力のある街にしていけば、若者も戻ってくるのではないのでしょうか。
	152	森の里東地区の開発により建設中の企業の社宅が旧全信連の社宅に決まり、現在リフォーム中です。家族世帯も入居することになると聞いています。森の里内に小・中学校があるなら入居する社員もいると思いますが、統廃合により、学校が変わる可能性があることが事前に分かっていたら入居を考える方もいるのではないのでしょうか。乳幼児を育児中の世帯が入居しても、小学校入学を機に引越を考えるかもしれません。社宅としての建物を継承していくメリットもなくなると思います。小・中学校が存続すれば、今より森の里内に居住する子どもの数が少しは増える可能性も残っていると思われます。銀行は ATM を残してなくなり、コンビニもできない、空き家ばかりの高齢者の地域を、子育て世帯が住みやすくなるような環境づくりと合わせて考えていく必要があると思います。
	153	森の里は永住する方が多く高齢化が深刻です。開校した頃から現在の様子は予測されています。高齢者施設になる予定と聞いていました。小・中学校は合併していくでしょう。
	154	玉川小と森の里小の統合は、一時しのぎ、10 年後の再編成や小学校低学年はスクールバス等支援が必要。森の里小の廃止は、地域の消滅につながる。まちづくりの観点からの検討も必要。清川村宮ヶ瀬地区の例、人数にかかわらず小・中学校の存続。
	155	森の里地区は、環境が整った素晴らしい地域なので、それを伝えながら、地域活性化を行っていききたい。そのためには安心・安全な学校は維持されるべき。そうしていかないと更に人が離れていってしまう。
	156	森の里駅をつくり、人を増やす。愛甲石田と伊勢原駅の間。駅前にららぽーとをつくり、若宮公園の広場にぼうさいの丘公園と同じ遊具をつくる。コンビニとかギャンブルのような治安悪化につながる施設はつくらない。自然と便利な街の融合を森の里で実現させ、日本のモデルにする。当然、学校も維持。子育て世代が住みたいと思う街をつくる。

地域づくり・地域コミュニティ (43 件)	157	学校を無くすと、若い世代が住みたいとは思わず、地域がどんどん高齢化し、過疎化につながると思う。若い人が住みたいと思う理由の1つは、小・中学校が安全に通学できる範囲にあることだと思う。もし不可能なのであれば、せめてスクールバスを出すなどがないと…。せっかく自然に囲まれ、遊歩道もあり、他の地域より安全に学校に通えるところなのに、また、緑豊かでのびのびと子育てできるところなのに、学校がないと若い世代は住みたいとは思わないと思う。小・中学校を1箇所に集めるなど、柔軟な考えで存続させる方向であってほしいと思う。
	158	問8ー1は誘導尋問ですので回答しません。学校がなくなると、その地区はゴースタウン化していきます。若い世代が学校のない地区に越してくるはずがありません。高齢化率が高いことを引きあいに出し、問題視するなら、なぜ、それをさらに推し進めるようなことをしようとするのか疑問です。まず、「適正」という言葉は、他の誰よりも主役の子どもたちにとって適正であるべきなのに、この言葉が市や行政に都合よく使われている気がしてなりません。市が「適正規模でない学校で起きている」と考えている問題の中には、森の里の小・中学校では存在していないことも、多々あると思います。先日、学校から配付された、学校評価に関するアンケート結果にも、先生方が考えられている、すばらしい視点がたくさんありました。単なる子どもの数で見るのではなく、机上のみの検討のみでなく、各学校の実情を目で見て、学校の雰囲気を感じてほしいです。ぜひ学校に見に来て子どもたちの様子を観察してみてください。森の里地区の小・中学校の児童、生徒の親の、どちらか、もしくは両方が、森の里小や森の里中の卒業生である確率が非常に高いです。これは、保護者世代の私たちが、自分たちの子どもを通わせたいと思う地域であり、学校であるということを表していると思います。親が子どもを良い学校に通わせたいと思うのは、至極当たり前のことですよね。これだけ強い思いを持っている森の里小学校、中学校を簡単になくしてはいけないと思います。
	159	森の里地区は高齢化が進んでいるのに、小・中学校まで無くなってしまったら、子育て世帯の移住や定住がますます見込めません。子育て世帯移住支援や小中一貫校をもっと前向きに検討するべきです。
	160	学校が毎日通うものであるとすると、あまりに遠いと通いにくいと思う。でも、生徒数が少なくなるのなら、地域ごとの学校維持は大変だと思う。卒業してから、学校に訪問したのは、どこかの劇団さんが体育館に劇を上演しにきてくれた時で、地域の人들도どうぞということでお知らせがあり、観に行ったのが最後だった。あれはよい体験だったし、またあのような演劇や文化に触れられる体験を学校でできれば嬉しく思う。
	161	玉川、森の里地区に小・中学校は残すべきだと思います。森の里地区に小・中学校がなくなってしまうと、一度地域外に出た次の世代が、ふるさととして帰って子育てする魅力がなくなってしまう。このままだと高齢化ばかりが進み、若い世代が帰ってこなくなります。通学時間も増え、児童にも負担が掛かります。公立の学校なので通学時間は遠い家の子、近い家の子で差がつくのは不公平だと思います。
	162	老人の多い地域でもあるので、学校が森の里地区からなくなること、防災や治安への不安が増すと思います。
	163	小学校があることにより、年配者との接触機会があります。
	164	学校は、子どもたちだけのためではなく、地域の拠点になるところだと思う。以前、昼間動ける人がいなくて、学校に、助けを求めたということがありました。学校に行けば誰かいるというのは安心できると思う。

地域づくり・ 地域コミュニティ (43 件)	165	高齢化が進む中で小・中学校に対する関心も薄くなっていますので、地域コミュニティとしての役割を明確にし、地域住民とのふれあいの機会を増やしていただければと考えます。
	166	子どもたちが、安全で安心できる範囲内に学校があるのはとても大切だと思います。そして、駅から遠いだけでなく、近くに学校が無いとなれば森の里に住みたいと思う若い世代が減りどんどん高齢化するしかないのではないのでしょうか。わざわざ森の里を選び、住みたいと思っているのにはいろいろ理由はあると思いますが、学校が近いということはとても重要なことです。神奈川県や厚木市の中でも特に環境の良い地域である森の里を廃れさせてしまうようなことはやめてほしいと思います。
	167	海老名から森の里に移り住み 34 年になり、当初は自治会公民館がなく、玉川地区の皆さんの協力を得て、現在の住環境の良い街になりました。当初、息子が小学3年生でした。森の里は海老名に比べレベルが高く刺激になりました。小・中学校をなくすことは簡単であるが、細々と規模を小さくしてでも維持することを望みます。
	168	地区内にもし学校がなくなれば若い人の増加が見込めず、更なる人口減少につながるのではないかと危惧される。地区内に学校を維持する方向で対策を考えるのが良いのではないか
	169	地域の中核を担う、小・中学校の維持は、とても大切なことだと考えています。森の里地区は住宅地でありますので、これから先の若い世帯の転入を考えた時、是非、維持をお願いしたいです。玉川地区との統合よりも、小・中学校の一体化という選択肢も有りなのではないか。
	170	セキュリティの関係で校舎に入ることは難しいと思うが校庭をもっと利用できたら良いのではないか。例えば、森の里ではグランドゴルフが人気であり、現在はチビっ子広場でやっているが、狭いので校庭だったら広々とやれて歓迎されるのではないかと思います。
	171	森の里は、高齢化が厚木市内のどこよりも早く進んでいると聞いています。小・中学校がこの地区からなくなれば、更に子育て世代の方は減る一方です。学校まで遊歩道などを使い安全に通学できますし、自然も多く、子育てには適した環境だと思います。学校を1ヶ所にし、小・中学校・幼児・高齢者が使えるようなことを考えていくべきかと思っています。(実際、現在でも小学校で高齢者がすごす場があります)
	172	子どもがいなくなると、森の里は過疎化してしまうのではないかと不安になります。スーパーや病院や郵便局が撤退してしまうと大変困ります。森の里小学校と中学校を1つの学校で運営するとか。
	173	学校は、地域のコミュニティの要であると考えます。少子化の中、子どもたちの成育、学びは健全に守られるべきものであると思います。ただ、当地域は高齢化の一途であり、森の里だけにとらわれず、玉川地区として考え、小・中学校の統合は考えても良いものだと思います。
	174	赤字の学校を統廃合するという考えを改めるべきである。少人数だがいじめもなく学力も高い、厚木市として他の地域や県から移住者を増やす努力をするのが先ではないか。学校が無くなったならコミュニティは廃墟化してしまう恐れもある。森の里の自然や街をいかして新しい魅力のある街づくりをしてほしい。子育てにはとても良い環境です。

地域づくり・地域コミュニティ (43 件)	175	特に高齢化が進んでいる地域では、若い世代を呼ぶことで地域の活性化につながると思います。しかし、森の里地区に学校がなくなれば、若い世代が森の里に住むという選択肢はなくなると思います。例えば、森の里小学校内に中学校を併設するなどして小・中学校を残してほしいと思います。この地域だけでなく今後厚木市内の児童がどんどん減少していく際に、「厚木市は住民や若い世代の意見を考慮することなく学校を統廃合する」となれば、厚木市に住むことすら選択しなくなるのではないかと思います。部活動等は玉川中と合同で行うなど、いろいろと検討できると思います。「子育て教育環境日本一」を目指す一環としてこの取組を考えていただければと思います。
	176	ただでさえ少子化になっている森の里地区に学校がなくなると、一層子ども連れの家族が移住することを敬遠するのではないのでしょうか。そういう意味で、統合してなくなることは避けていただきたいと思います。廃校にするのであれば、アクティブな活動ができるもの、今時でいえばグランピングができる施設などはいかがでしょうか。
	177	小・中学校の適正配置の一環として、森の里中学校を廃校とした場合、大災害が発生した場合の、避難所としての森の里中学校を利用することができなくなってしまう。地域の防災拠点としての役割が担えるのは、現状利用されている小学校や中学校であり、一旦廃校となってしまうと、防災拠点としての利用が難しくなる。森の里地区の場合、地域の特性である、自然が豊かで安全な地域という所に魅力を感じて、他の市町村から移住してくる人もいる。せっかくの魅力ある特性を今後もいかし続けるためにも、人数だけで小・中学校の適正規模・適正配置を行うのでは無く、現状を見て、それぞれの地域のことを事前に理解してから進めていただきたい。現状の森の里中学校が廃校となり、玉川中学校に合併された場合、通学距離が長くなり、自転車で通学するとしても、交通事故が増えることが懸念される。スクールバスを出すのかどうかについても、具体的な案は無く、通学が不便になり、交通事故が増える可能性が高くなり、あまりメリットが感じられない。
	178	各地区内での学校を維持することは、その地区の衰退を防ぐ効果もあると考えます。各地区内での学校消滅はその地区全体の衰退と直結している(小・中学生を子に持つ新しく移住されようとする方のモチベーションが確実に下がる)と思われます。
	179	親との同居、または子世代へと変わりつつ住宅事情も視野に入れるべきだと思います。現在少ないからと考えるだけでは、子ども世代の方々がこの地域から出て行ってしまう。小・中学校だけの問題ではなくなることも視野に入れ、街全体のことも考えて決めてほしいと思います。実際説明会では学校がなくなるのなら、引っ越しを考えると意見が多数出ていたのも事実です。子どもや子世代の未来を考えていただきたい。学校の建物を小さくするなど考える方法はたくさんあると思う。厚木の子育て支援が手厚くても、地域に学校がないのでは、子育てできない。最近越してきた方には子だくさんの家族も増えてきています。これは厚木市の子育て支援のおかげかと思います。ただ学校を減らすことだけを考えるのではなく、その地域に合った学校の在り方を検討していただきたいと思います。現在中学校の地域ボランティアとして参加しています。先生方の負担を減らすために、子育てが終わった方々は自身の子が学校にお世話になった分協力的かと思います。子ども会のお母様方のお話しでは今回の統廃合について、不安を口にする方がとても多いこと、子どもたちの成長を心配する方が多いことを考慮してほしい。

地域づくり・ 地域コミュニティ (43 件)	180	もし、学校が廃校となった場合、校舎をひとり親世帯の方々が住めるような住宅(集合住宅)とし、再活用をするなど。また、子どもの人数が増える取組(ひとり親世帯の援助も含めて)を市政として、検討していただきたい。
	181	例え、学校の統廃合が実施された場合も、地域防災拠点の機能の保持など、地域への貢献を最優先に跡地利用を考えていただきたい。
	182	今後は年輩(高齢)者を対象とした催し物施設場所として、考えて行く方が良いのではないかと考えています。周囲では最近、他県に移動し、売家になっている所が見受けられるようになった。
	183	小、中学校の統廃合は少数になれば仕方がないが学校は何か利用できるので残してほしい。災害の時などに利用できるように考えてください。
	184	子どもの数が減り続けることから考えて小・中学校の統廃合は避けられないと思う。廃校となる学校校舎を民間事業者で有効活用することを進めると同時に、活用の目処が立たない学校は商業施設やマンション等の設置ができるように、早めに民間に払い下げてはどうかと思う。
その他 (22 件)	185	森の里地区の児童・生徒の減少は単に少子化等の問題だけではなく、森の里という地区そのもののまちづくりの方向性に問題があると考えています。子育てに適切な環境が整っているにも関わらず子どものいる若者や家族が森の里に集まらないのは、高齢者向けマンション等で高齢者を集めるような方針でまちづくりを進めてしまっているためだと考えます。(自治会等に参加した際にも、コンビニエンスストアの設置を始めとする若者の意見が届かずに取り下げられてしまうことが多々あります。)。学校を維持する必要はあまり無いと回答させていただきましたが、このまま市や地域の意向として森の里地区を高齢者専用地区とするのであれば、この地区には学校は必要無いのではないかとという意味で回答させていただきました。
	186	交通手段の失敗(モノレール予定がなくなった。)→青山学院大学の移転→若い世代が、寄りつかない。→これは、市の政策が、将来を見ていなかった失敗です。若い世代を、積極的に呼び込む何かを、今後、考えることが必要です。
	187	児童・生徒数の減少を前提にしていることがおかしい。逆に、児童・生徒数を増加させる方法を考えるべきである。
	188	森の里地区で子育てをしようとする人々が増えているので市立小・中学校の存続は必要ではないか。地域社会としては各年代の人々が構成することで成り立つと思っています。市全体として高齢者ばかりになってしまう地区は問題ではないでしょうか。
	189	児童・生徒数が減少するから学校を減らすというのは、場当たり的で将来性の無い対応に感じられます。難しい課題だとは思いますが、将来性のある取組を期待します。例えば、厚木市の住民数増加や出生率向上の取組はどうなっているのでしょうか。厚木市には 15 年住んでいますが、ほとんど聞いたことがありません。市民と一緒に取り組むためにも周知などから見直しても良いかと思っています。
	190	若者が、ここに住みたいと思える交通の便利さ、買い物の便利さが必要だと思います。リニアモーターカーが通る予定がなくなったと聞きましたが、この辺りは、バスの便も少なく、大変不便な所です。若い人は、住みたくないと思います。自然だけでは魅力がありません。

その他 (22 件)	191	森の里地区から小・中学校のいずれかがなくなった場合、森の里地区から玉川地区に通うことは大変なので森の里地区の過疎化が加速化されることは免れません。森の里中学校はサッカー部などの部活動が廃止され、魅力が薄れてきています。厚木市として森の里地区をどうしたいのか、工場でなく住人が増える施策を打つべきなのか、検討していただきたいと思います。合理化一本やりの施策では厚木市から海老名市に住民が移動する可能性があると思います。
	192	統廃合となると、またその地域の過疎化に拍車がかかるのを危惧します。どんどん高齢化が進み、いろいろなものが無くなっていき、厚木の中心地のみが増える傾向が怖いです。
	193	地区計画が無策なため、今日のような状況を生み出している。このままでは森の里地区は限界集落になるでしょう。結果として、税金、治安などの課題も引き起こされるので、再考をお願いしたい
	194	統廃合のことばかりではなく、人口を増やすための誘致政策であつたり交通の利便性の改善であつたり、地域を活性化させるよう、教育総務課だけでなく、他の部や課と連携をとってほしいです。玉川小だけでなく森の里小も特別区にするとか、公立だからではなく逆に差別化して、人口を増やしていくような政策を願いたい。
	195	玉川地区も森の里地区も子育てにとっても適した場所だと考えます。厚木市内に子どもが増えるような政策をしっかりと考えていただきたいと思います。少人数の児童・生徒に対して、多くの教員が関われるように教員を更に増やすような取組を望みます。
	196	歴史ある地域と新興住宅地とは成り立ちが全く異なる。お互いの交流は良いことだが、各々の特性は別のものとして残すべきである。そもそも地域の過疎化はハコモノだけ作り、住民、教育機関、企業を、誘致したにも拘らず、公共交通網を充足させず、住民生活、大学教育などを困難に貶めた市と行政の責任もある。住民は去り、大学は退去し、駅周辺商業施設の廃れをもたらした。これ以上、地域の学校まで無くなったら、この良き環境で育った子どもも今やリモートワークが可能なのに、便利な他地域を選ぶようになる。借りて住みたい街・厚木は決して永く住める厚木とはならない。もっと、住民を大事にして。市が無策だから地域の頭脳が案を講じる羽目に。もっと、社会学、教育学、地域経済を学んだ人はいないのか。既に中学は選択制導入であり小・中学校と公民館一体化は。体育館、グラウンド、青少年育成機関も含めて考える。バス補助も老人券を配るのではなく、バス会社に補助金を出して、バス本数増やすとか。妻田方面は車庫あるから本数やたら多いのに、どうにか対策して住みやすい街にしてよ。市内開発めっちゃ、道路網グニャグニャ開発、企業優先で、住民置きざり。うんざり厚木。
	197	教科書どおりに授業を進めるだけなら、規模の大小に関わらず、先生の教え方の質に大きく依存すると思う。やる気がある子どもは伸びるし、ない子はそのまま。その点では、小規模の方がフォローしやすいのではないのでしょうか。実情は分からないが、仕事が多いのは、公務員持手の無意味で必要性の見いだせない仕事やルールが多いせいでは。現場では変えられないことかもしれないが、自分たちの仕事の進め方も見直すべきだと感じる。イベントをやるなら、学内にこだわらず、学校間(地域全体)で実施すればよいのでは、PTA はなくす。残したいなら、その人たちでやればいい。

その他 (22 件)	198	小学校のピロティは地域コミュニティの活動拠点の役割も果たしているので、これからも活用していただけると有難いです。
	199	森の里地区は高齢化率が他地区よりも高く、児童・生徒の減少が著しいのは知っていた。その原因の一つに、住民の特性があると思う。インフラの一つでもあるコンビニエンスストアの建設を、「不良のたまり場になる」「高級住宅地としてのイメージが悪くなる」などの理由で拒んでしまう、旧態依然の考え方を未だに持つような人が多い地区に、子育て世代が転居してこないのは当たり前の話。このような状態はなるべくしてなったのであり、玉川小・中学校に統合されても仕方がないとすら思う。
	200	「地域」「地区」と2つの表現を使っていますが誤解が生まれないように今後も、「小学生でも分かる表現」による説明が必要と思う。今の学校を維持させたい。そのための検討をお願いします。
	201	小・中学校が無くなると地域に引っ越してくる若い世代が来なくなる。だからと言って維持するために地域住民に協力を要請するにしても基本は子持ち世代に対応すべき。子持ち世代は各種補助金を受けているので義務も負うべき。私は独身で地域に家を買ったが何一つ補助金も貰えず対象外であったので学校維持に加担するつもりはない。それらを当てにするのであれば、子持ち世代に限らず補助金などの補助は行うべき。それが無理なら公立の小・中学校の設備を私立へ払い下げて維持するなどの案を検討すべき。
	202	森の里小学校・中学校の卒業生です。森の里小学校での思い出は今でも色あせません。
	203	増加する高齢者の居場所(児童・生徒との交流(放課後のサークル活動など)、清掃や書類整理など学校管理業務の一部分担など)も兼ねて、職員の負担を減らしつつ既存の学校をできるだけ存続することが重要と思います。核家族化が極度に進み、若年層と高齢者層の交流が減り、若年層は高齢者の経験・知恵・病・死等人生で経験すべき機会が減っている。一方の高齢者にとって、自身の存在が地域の次世代に役立つことは生きがいにもつながり、健康維持にもなる。両者にとってメリットがあるように思います。
	204	人生 100 年時代なので、小・中学校を前半人生の教育の場としてだけでなく、後半人生の教育の場として使ったらいいのではないのでしょうか。
	205	森の里小学校の卒業生です。生徒は減っているかと思いますが、森の里内を通して通学することで、地区の良さを感じることもたくさんありました。私も子どもが産まれたら、環境や治安が良く、自然豊かな森の里で子育てがしたいと思い、今も森の里に住み続けています。
	206	孫が学童にお世話になり、放課後の児童の居場所は、とても大切だと思います。

3. 自由記述欄

(1) 設問(2)で「適切」「おおむね適切」と回答した理由について [その他選択理由]

① 児童の保護者(回答数:3件)

No	回答内容
1	ある程度人数がいないと人は成長しない
2	小学校も学年当たり3学級以上の方がより適正かと思います。3～4学級がよい
3	自覚の有無を問わず、社会の縮図を目の当たりにすることで今後を生き抜くための課題に触れ知恵を得る

② 未就学児の保護者(回答数:1件)

No	回答内容
1	学級数は少なくとも良いと思う(密な教育に期待できるから)

(2) 設問(2)で「あまり適切ではない」「適切ではない」と回答した理由について [その他選択理由]

① 児童の保護者(回答数:23件)

No	回答内容
1	学級数が増えると異学年との交流の機会が減るため
2	小規模校にも目が届きやすいなどのメリットがある(選択肢が皆小規模校のネガを選ぶものになっていることが不満)
3	クラス数に適正規模という概念を持ち出すのは、根拠もなく意味がない
4	児童数及びクラス級が多いほど、クラス管理すら難しい状態が現実として見受けられる
5	学級数で適正規模かどうかを決めることに疑問があります
6	参考資料の3ページでも明示の通り、小規模校にもメリットがある。学級数に応じて学校のあり方を考えるといったやり方もあるのに、「適正」という言葉で固定的に考えることに適切さを感じない。国の基準を上まわる学級数を適正とする根拠も見えない
7	学年の子どもが増えると、「おとなしい」子は、埋もれがちになるけれど、本当は、その子らしさがある。「目立つ」子ばかりではなく、「おとなしい」子にも、良さが出せることが小規模校の良いところだと思う。9～18では多すぎる
8	過疎化の進む地域では行政が力を入れて山村留学など地域外からの生徒を呼びこむなどの学校改革を行い教育でも独特の教育学(民間など)をとり入れ学習能力の底上げや課題活動にも力を入れている→<例>長野県他。どちらかの考えに固執せず、単級であれば逆に縦割りや1～6学年までの班分けで活動するなど学校改革の情熱をもって魅力ある学校を作ってほしい。学校も学区を選べるようにしたり、私学の生徒を集めるための取組を参考にしてみたらどうか。学校教育が話題になれば、森の里への関心も増え、森の里に移り住む若い世帯も増えると思う
9	人数が少ない場合、適正規模という考えではなく、少ないなりに工夫して持続すべき。多い場合は分けてもいいと思います
10	予算の問題が根本のように感じる。教育にはお金を掛けるべきであるし、諸先進国のように、少人数クラスの先取りを検討していただきたい。なぜなら、森の里は少人数で問題が生じておらず、先生や保護者もその良さを認めている。ことさら少人数のデメリットを強調しているように感じる。50年先をとおっしゃるのなら、100年先を見据えて少子化時代に合った学校のあり方をぜひ作っていただきたいし、そのために保護者が学校のサポートをできることがあるなら、ぜひ協力してでも、森の里に小・中学校をそれぞれ残していただきたい。

11	生徒数が多くても少なくても、メリット、デメリットは存在する。適正規模を掲げること自体、意味がない
12	そもそもの適正規模に囚われすぎている気がする。人数も大事だけど地区（通学距離）が一番大事ではないかと
13	学級数、1学級の人数ばかりがより良い教育環境とは思わない
14	1学年当たり1学級で問題無い
15	一学年当たり1学級以上に変更を望む。もしくは1クラス当たりの人数を20人程に緩和して2クラスにしてほしい
16	児童・生徒数が減少している現状にあつては、適正規模の範囲も見直されるべき
17	そもそもPTA活動を時代に見合うようにするべき
18	特に中学校の6クラスは多すぎると思う。1番心技体のサポートが必要な時。保護者と先生との連携が大事なのに分断を感じます
19	どの規模でもメリット・デメリットがあるので、何をもって適正と言っているのか不明
20	設備と学生規模の効率が悪すぎる。教室、体育館の大きさは人数にあまり比例しない
21	学級数の適正規模を定めることに賛同できない。選択肢の問題は、学級数の多少以外が原因と考える
22	無理に適正規模の範囲を決めるべきではない。1学年1学級からでも十分にメリットがある
23	学級数の大小には得失があり、状況や立場によって適正な規模は異なると考える

② 未就学児の保護者（回答数：6件）

No	回答内容
1	定義された適正規模の人数が良い教育環境に結びつくというエビデンスが不明
2	適正規模は立地など他の諸条件も勘案して決められるべきであり、一律に適正規模を定めることは適切ではない
3	児童・生徒数の減少に伴い少人数学級を推進すべき。適正規模の範囲が時代に合っていない。
4	教師の目が届く、子供同士の交流が増えるメリットを考え、学級数を減らすのも良いと思う
5	適正規模という考え自体が今後の少子化を考えられていない
6	小規模校でもメリットが沢山ある

(3) 学校規模適正化の検討に当たり重視すべきことについて [その他選択理由]

① 児童の保護者(回答数:18 件)

No	回答内容
1	子どもにとっては、放課後に学校の友達と遊ぶといった学校と離れての活動も大事です。同じ学校の友達の親が住んでいる場所が見えるといった安心感は、「安心して遊びに行かせる」という意味ではとても重要
2	学校は地域の維持、発展の重要な要素であり、地域、コミュニティの将来のあり方とセットで論ずべき
3	学校の規模適正化(減らす)を重視しすぎて、町の発展を妨げたり、土地の価値の低下を招いたりすることがないようにすべきだと思う。学校がない街にはファミリー層は引っ越してはこないということを重視すべき
4	子育て日本一を目指しているわりには学校縮小とかおかしいと思う。例えば森の里は 10 年経ったらどうしても高齢者は減って行って、空き家がで、そこに新しい世代が来るかもとは考えないのかなあ。
5	一番大事な観点が抜けている。教育の質が上がること。維持でも低下でもなく、向上が求められる
6	学校教育の内容がより充実すること(机上の学習という意味ではない)
7	地域の人口増減は、おおよそ検討できると思うし、もっと早くに手を打つべき。遅い
8	むやみに、人数が少なくなってきたからといって統廃合に走らず、地域、厚木市全体の利点につながるように考えないといけないと思う。厚木はかなり、地域により人数の偏りがあるため、その問題点を解決しないといけないと思う。学校に通えなかったり、人数が多すぎたりする学校の児童等の問題も今回のことで一緒に解決できないでしょうか。森の里や七沢地区から人口が減少するということは避けてほしい
9	どれだけ小規模になってもとは言わないが、ある程度小規模になっても極力現状維持されること
10	学校規模適正化という言葉が先走りしているように感じる。生徒によっても少人数が合っている子や大勢の中で学びたい子など様々。統廃合以外にできることはたくさんあるはずだと思う
11	選択肢1を選択しましたが、2、3、5については大前提だと考えます
12	検討することは大事だが、臨機応変に。経費削減も必要だが、地域の世代交代が見込まれる可能性も考えるべき
13	現状で、市で定める適正規模の学校でも、上記の問題が起こり得る。規模の問題にすり替えるべきではない
14	小学校同士、中学校同士の統廃合にこだわらず、同じ地域内の小学校と中学校を統合して、地域からどちらもなくならないようにするなどの柔軟な考え方が必要
15	選択肢7の補足。地域の実情と意向に沿うべきで、「全ての学校」という言い回しは適切か疑問ですが、森の里地区は、統廃合せず、小規模でも小学校、中学校を維持していただきたい
16	特色を出したり、この学校へ行きたい!!というような、子どもの希望があれば、学区にこだわらずに行きたい学校を選べるようなシステムをつくる。選んでもらえるような学校にしようという意識からつくっていく
17	地域住人及び子どもたちの価値観・デマンドに応じた判断をすること
18	適正化と学校教育内容の改革を行わなければ、ただただ人口減少の波のあおりを受けるだけだと思う

② 未就学児の保護者(回答数:2件)

No	回答内容
1	都市計画の観点から、将来的に市街地として機能すべきエリアに子育て世代の流入が見込めるよう、学校を配置すべき
2	人数の大小に関わらず、義務教育を受けるすべての児童・生徒を平等に扱うこと

(4) 過去1年間に市立小・中学校にどのような理由で行ったか [その他選択理由]

① 地区住民(回答数:16件)

No	回答内容
1	友人の子どものバスケの試合の応援
2	地域福祉活動
3	住民への説明会
4	孫の児童クラブのお迎え
5	森の里音楽祭
6	先生方に会うために
7	各校庭の草刈りなどボランティア活動、厚木市交通安全指導員で活動
8	校庭の雑草等処理ボランティア
9	過去1年間で行く必要性が無かった
10	青少年指導員、青健連の活動で小・中学校を利用
11	市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組の説明会へ行った
12	自分たちの子供は既に成人していますので
13	除草活動等(ボランティア団体として)
14	お弁当を届けた
15	厚木市以外ですが、公務員で学校の建築、管理の仕事をしているのでよく行っています
16	孫の送迎のため

(5) 学校教育以外で学校が担っている役割等として重要なものについて [その他選択理由]

① 地区住民(回答数:4件)

No	回答内容
1	①何らかの折りに集える所②思い出づくりの場所
2	選択肢1、4、7
3	地域学校協働活動の実践の場として
4	学校がなくなると、子育て世代がこの街から出てしまい、少子高齢化が加速。最終的に限界集落になるため

(6) 学校規模適正化に当たり、教育環境の充実以外で考慮すべきことについて [その他選択理由]

① 地区住民(回答数:15件)

No	回答内容
1	統廃合が実施された場合における児童の通学の負担・安全性についての考慮
2	統廃合等により学校が減少した場合、遠距離通学になる児童、生徒が天候等の諸条件も含めて、安全に安定的に通学できるしくみの構築→路線バスでは時間どおりでない運行や通学費の増額も懸念される
3	小中一貫校にして特徴のある教育環境にして地域からの入学に希望を持ちたい

4	森の里に移り住みたいと願う子育て世帯が増え、人口を増やし子どもたちが伸び伸び育つ環境を創造する施策が肝要
5	参考資料9ページ、Q2下から6行目にあるように国が示す～」に基づき、決めるのでしょうか。そこに何が書かれているかは分かりませんが
6	他地域(もちろん世界中から)からの受入れ、大学、留学等で活かす。選択肢3→無駄に維持する必要はないと思います
7	通学の安全が確保、充実した学校生活を送れる環境を提供し、活気のある地方都市として地位を確立すること
8	統廃合の結果、廃校となった校舎の扱いについて。災害時の拠点が必要だが、巨大な廃墟が残されるのも困る
9	地域の特性をふまえた学校の在り方を第一に考慮して、その地域の学校を創造する方法を行政が考える
10	遠距離通学になる児童への配慮又は交通手段の確保
11	森の里駅を作り、人を増やす。駅前にららぽーとを作る。若宮公園の広場にぼうさいの丘公園と同じ遊具を作る
12	将来的に児童・生徒数が減少する見込みであっても、地域の防災拠点としての役割は維持されること
13	小・中学校を両方とも統合してしまうのではなく、義務教育としての小中学一貫校を考えることも必要では
14	交通の便が悪い地区のため、人口の増加は厳しい
15	生徒の通学のしやすさ(余裕のある台数の送迎バスを出していただくなど)に考慮いただきたい